令和 3 年度

人間生活学総合研究科教授内容

造形学専攻

東京家政大学大学院

(3)造形学専攻(修士課程)

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考(シラバスページ)		
服飾美術分野	被服科学	被服材料学特論	2	選	教授 濱田 仁美	中・高専(家庭) P1	
		被服材料学演習	2	選	教授 濱田 仁美	中・高専(家庭) P2	
		被服管理学特論	2	選	教授 葛原 亜起夫	中・高専(家庭) P3	
		被服管理学演習	2	選	教授 葛原 亜起夫	中・高専(家庭) P4	
		繊維加工学特論	2	選	客員教授 森 俊夫	中・高専(家庭) P5	
		繊維加工学演習	2	選	客員教授 森 俊夫	中・高専(家庭) P6	
	服飾造形学	被服科学実験	1	選	教授 濱田 仁美	中・高専(家庭) P7	
		被服構成学特論	2	選	教授 潮田 ひとみ	中・高専(家庭) P8	
					教授 高水 伸子		P9
		被服構成学演習	2	選	教授 潮田 ひとみ	中・高専(家庭) P10	
					教授 高水 伸子		P11
		被服構成学実験	1	選	教授 潮田 ひとみ	中・高専(家庭) P12	
					教授 高水 伸子		P13
		アパレル設計学特論	2	選	准教授 田中 早苗	中・高専(家庭) P14	
		アパレル設計学演習	2	選	准教授 田中 早苗	中・高専(家庭) P15	
		和服造形学特論	2	選	准教授 寺田 恭子	中・高専(家庭) P16	
		和服造形学演習	2	選	准教授 寺田 恭子	中・高専(家庭) P17	
		服飾工芸演習	2	選	准教授 大塚 有里	中・高専(家庭) P18	
	服飾文化史特論	2	選	准教授 沢 尾 絵	中・高専(家庭) P19		
	服飾文化史演習Ⅰ	2	選	准教授 沢 尾 絵	中・高専(家庭) P20		
	服飾文化史演習Ⅱ	2	選	准教授 沢 尾 絵	中・高専(家庭) P21		
	服飾デザイン学	染織史特論	2	選	講師(兼) 須藤 良子	中・高専(家庭) P22	
		ファッション情報学特論	2	選	客員教授 松木 孝幸	中・高専(家庭) P24	
		ファッション情報学演習	2	選	客員教授 松木 孝幸	高専(家庭) P25	
		服飾デザイン特論	2	選	教授 石田 恭嗣	中・高専(家庭) P26	
		服飾デザイン演習	2	選	教授 石田 恭嗣	中・高専(家庭) P27	
		色彩表現論	2	選	教授 石田 恭嗣	中・高専(家庭) P28	
		服飾デザイン表現演習	2	選	教授 桃木 美恵	中・高専(家庭) P29	
		デジタルデザイン特論	2	選	教授 宮本 真帆	中・高専(美術) P30	
		デジタルデザイン演習Ⅰ	2	選	准教授 宮本 真帆	中・高専(美術) P31	
		デジタルデザイン演習Ⅱ	4	選	准教授 宮本 真帆	中・高専(美術) P32	
	造形表現分野	メディア表現	映像メディアアート特論	2	選	教授 兼古 昭彦	中・高専(美術) P34
			映像メディアアート演習Ⅰ	2	選	教授 兼古 昭彦	中・高専(美術) P35
映像メディアアート演習Ⅱ			4	選	教授 兼古 昭彦	中・高専(美術) P36	
育ちのための表現特論			2	選	教授 岡田 京子	中・高専(美術) P38	
表現と社会		育ちのための表現演習Ⅰ	2	選	教授 岡田 京子	中・高専(美術) P39	
		育ちのための表現演習Ⅱ	4	選	教授 岡田 京子	中・高専(美術) P40	
		美術史特論	2	選	准教授 曾根 博美	中・高専(美術) P42	
美術史		美術史演習Ⅰ	2	選	准教授 曾根 博美	中・高専(美術) P43	
		美術史演習Ⅱ	4	選	准教授 曾根 博美	中・高専(美術) P44	
工芸		陶芸特論	2	選	教授 高田 三平	中専(美術) P45	
		陶芸演習Ⅰ	2	選	教授 高田 三平	中専(美術) P46	
		陶芸演習Ⅱ	4	選	教授 高田 三平	中専(美術) P47	
		金工・ジュエリー特論	2	選	教授 押元 信幸	中専(美術) P49	
		金工・ジュエリー演習Ⅰ	2	選	教授 押元 信幸	中専(美術) P50	
		金工・ジュエリー演習Ⅱ	4	選	教授 押元 信幸	中専(美術) P51	
	染色造形特論	2	選	教授 早瀬 郁恵	中専(美術) P53		
	染色造形演習Ⅰ	2	選	教授 早瀬 郁恵	中専(美術) P54		
	染色造形演習Ⅱ	4	選	教授 早瀬 郁恵	中専(美術) P55		
	織物特論	2	選	講師 大木 敦子	中専(美術) P57		
	織物演習Ⅰ	2	選	講師 大木 敦子	中専(美術) P58		
織物演習Ⅱ	4	選	講師 大木 敦子	中専(美術) P59			

(3) 造形学専攻(修士課程)

区分	授業科目	単位数	必選別	担当教員	備考(シラバスページ)	
造形表現分野	平面表現	絵画特論	2	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術) P61
		絵画演習Ⅰ	2	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術) P62
		絵画演習Ⅱ	4	選	准教授 山藤 仁	中・高専(美術) P63
		グラフィックデザイン特論	2	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術) P65
		グラフィックデザイン演習Ⅰ	2	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術) P66
	グラフィックデザイン演習Ⅱ	4	選	教授 有馬 十三郎	中・高専(美術) P67	
	空間表現	住環境特論	2	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭) P69
		住環境演習Ⅰ	2	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭) P70
		住環境演習Ⅱ	4	選	教授 手嶋 尚人	中・高専(家庭) P71
		インテリアデザイン特論	2	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭) P73
インテリアデザイン演習Ⅰ		2	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭) P74	
インテリアデザイン演習Ⅱ	4	選	准教授 豊田 聡朗	中・高専(家庭) P75		
研究指導	特別研究・制作	10	必	教授 高水伸子 有馬十三郎 石田恭嗣 潮田ひとみ 岡田京子 押元信幸 兼古昭彦 葛原亜起夫 高田三平 手嶋尚人 濱田仁美 早瀬郁恵 曾根博美 豊田聡朗 宮本真帆 山藤仁 准教授	P77	

※教職課程については、免許種別に、備考欄に記載した授業科目から24単位以上を履修する。

※授業は、多様なメディアを利用し、同時双方向又はオンデマンドにより教室等以外の場所で行うことができる。

授業科目名：被服材料学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：濱田仁美
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服材料としての繊維について、専門的知識を修得する。</p> <p>被服材料に関連する英単語を習得し、英文文献の読解力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>被服材料の大半は繊維製品からなり、原材料の繊維及び繊維集合体の構造や性質は、最終製品である被服の性能に密接に関連している。天然繊維や合成繊維の構造及び特性、機能性繊維の開発動向について講述する。教材は英文のテキストを使用する。</p> <p>服飾美術分野において、繊維についての専門的知識を修得し、専門英文の読解力を向上させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：繊維及び繊維集合体の特性【総論】</p> <p>第2回：繊維及び繊維集合体の特性【化学的特性】</p> <p>第3回：繊維及び繊維集合体の特性【物理的特性】</p> <p>第4回：天然繊維の構造と特性【総論】</p> <p>第5回：天然繊維の構造と特性【植物系天然繊維】</p> <p>第6回：天然繊維の構造と特性【動物系天然繊維】</p> <p>第7回：再生繊維の構造と特性【総論】</p> <p>第8回：再生繊維の構造と特性【レーヨン・セルロース系繊維】</p> <p>第9回：合成繊維の構造と特性【総論】</p> <p>第10回：合成繊維の構造と特性【紡糸法】</p> <p>第11回：合成繊維の構造と特性【繊維の特性】</p> <p>第12回：繊維の改質法【ナノファイバー】</p> <p>第13回：繊維の改質法【機能性繊維】</p> <p>第14回：まとめと解説</p>			
<p>授業外学修：予習1時間、復習1時間</p> <p>授業前にテキストの次回範囲を読み、不明な英単語は調べておくこと。</p> <p>大学の「被服繊維学」「被服材料学」の復習。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「TEXTILES: Concepts and Principles」</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>必要に応じて、その都度指示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>予習復習を含めた授業時の回答等の平常点30点。課題に対するレポート提出30点。試験40点。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：被服材料学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：濱田仁美
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>繊維材料物性に関する専門的知識を修得する。</p> <p>研究遂行に必要な、文献の検索及び専門英文文献の読解を行う力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>被服材料としての繊維の特性、繊維材料の物性に関しての、英文文献の輪読を行う。科学文献の読み方を学び、英文の読解力を向上させると共に、過去の研究結果や既存技術の把握を行う。必要なキーワードから、適切な文献を検索する方法を習得する。</p> <p>服飾美術分野において、繊維材料物性についての専門的知識を修得し、適切な文献を検索する力及び専門英文文献の読解力を向上させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：英文文献の読み方や検索方法の説明</p> <p>第2回：テキスト「繊維の特性」の輪読</p> <p>第3回：テキスト「繊維の特性」の輪読（続き）</p> <p>第4回：テキスト「繊維の特性」の輪読（続き）</p> <p>第5回：テキスト「繊維の特性」のまとめと発表</p> <p>第6回：テキスト「繊維材料の物性」の輪読</p> <p>第7回：テキスト「繊維材料の物性」の輪読（続き）</p> <p>第8回：テキスト「繊維材料の物性」の輪読（続き）</p> <p>第9回：テキスト「繊維材料の物性」のまとめと発表</p> <p>第10回：英文文献の検索</p> <p>第11回：英文文献の輪読</p> <p>第12回：英文文献の輪読（続き）</p> <p>第13回：英文文献のまとめと発表</p> <p>第14回：最終発表と討論</p>			
<p>授業外学修：予習1～2時間、復習1時間</p> <p>各授業前に、担当分の全文和訳を行っておくこと。大学の「被服繊維学」「被服材料学」の復習。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>「TEXTILES: Concepts and Principles」</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>自ら文献検索を行う。その他、必要に応じて指示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>予習復習を含めた授業時の発表等の平常点40点。課題に対するレポート提出30点。最終発表30点。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：被服管理学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：葛原亜起夫
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>衣料用洗剤に配合されている界面活性剤等の成分を、洗剤の性質と関連づけ、分類できるようになる。各汚れ成分の除去メカニズムを理解し、繊維素材に適した衣料用洗剤を、洗剤中の配合成分と関連づけ、選定できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>大切な被服を損傷させず、かつ効率良く汚れを洗浄する上で、素材に適した衣料用洗剤を選択すること、品質表示に沿った適切な洗浄を行うことが重要となる。</p> <p>ここでは、被服管理学 (Fabric Care Science) の中心と考えられる洗剤・洗濯を基本に、基剤 (界面活性剤など) の働きと性質などの基礎的な知識を習得する。また、汚れの付着メカニズム、洗浄 (汚れの除去) メカニズム、着用・洗濯・漂白・保管などによる被服の損傷メカニズムを、物理、化学、生物、数学などの基礎科学、および被服材料の構造や化学的性質と関連づけることにより、理論と実際の有機的な理解力を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：被服管理学序説 (被服整理・被服管理学とは？生活の中での役割)</p> <p>第2回：被服の汚れ (各種汚れ成分の分類とその付着メカニズム)</p> <p>第3回：水と洗剤 (洗浄に及ぼす硬度の影響、衣料用洗剤の油脂科学)</p> <p>第4回：湿式洗濯 (最適洗浄条件と機械力の影響)</p> <p>第5回：洗浄 (油性汚れと固体粒子汚れの除去) メカニズム</p> <p>第6回：洗浄性試験 (各種汚れ成分の分光学的手法による評価)</p> <p>第7回：中間まとめ</p> <p>第8回：家庭洗濯 (各洗浄工程：本洗い、脱水、すすぎ、乾燥のメカニズム)</p> <p>第9回：漂白と増白 (漂白剤による被服の損傷メカニズム)</p> <p>第10回：仕上げ (柔軟仕上げのメカニズム、アイロン仕上げのメカニズム)</p> <p>第11回：被服の保管 (被服のしわ形成メカニズム)</p> <p>第12回：被服整理 (廃棄・リサイクル) と環境負荷</p> <p>第13回：繊維製品の取り扱いに関する表示 (新・旧表示)</p> <p>第14回：授業総括</p>			
授業外学修：予習1時間、復習・ノート整理1時間			
テキスト：衣服管理の科学 (建帛社)			
参考書・参考資料等：必要に応じてプリントを配布する。			
学生に対する評価：学生に対する評価：平常点50点、中間テスト、期末テスト50点。			
その他：			

授業科目名：被服管理学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：葛原亜起夫
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服管理学に関連した国外文献の探し方、講読、発表ができるようになる。 現在、着目されている問題を把握し、研究への応用ができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>被服管理学に関連した国外学術文献を講読し、関連する単語、文章を理解し、科学文献講読力を身につける。 この授業で得られた英語力により自身の研究内容のまとめ、英文科学論文が作成できる力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Reducing Wrinkle Formation in wool with 2-IT (前半講読) 第2回：Reducing Wrinkle Formation in wool with 2-IT (前半解説) 第3回：Reducing Wrinkle Formation in wool with 2-IT (後半講読) 第4回：Reducing Wrinkle Formation in wool with 2-IT (後半解説) 第5回：Structure Changes in Keratin Fibers Resulting from Bleaching Treatment (前半講読) 第6回：Structure Changes in Keratin Fibers Resulting from Bleaching Treatment (前半解説) 第7回：Structure Changes in Keratin Fibers Resulting from Bleaching Treatment (後半講読) 第8回：Structure Changes in Keratin Fibers Resulting from Bleaching Treatment (後半解説) 第9回：A New Creaseproof Finish for Wool Using 2-IT (前半講読) 第10回：A New Creaseproof Finish for Wool Using 2-IT (前半解説) 第11回：A New Creaseproof Finish for Wool Using 2-IT (後半講読) 第12回：A New Creaseproof Finish for Wool Using 2-IT (後半解説) 第13回：Soil Removal from Fabrics (講読) 第14回：Soil Removal from Fabrics (解説)</p>			
<p>授業外学修：予習1時間、復習・ノート整理1時間</p>			
<p>テキスト：第1回目の授業で指示する。科学論文を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：参考資料等：第1回目の授業で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：予習・復習の有無50点、発表・出席などの平常点50点。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名： 繊維加工学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：森 俊夫
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>繊維製品には、付加価値を高めるために、染色や各種高機能を有する加工が施されている。最近の染色や各種加工方法、問題点などにつき環境と関連して解説し、繊維加工に関する知識を高めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>繊維製品には、繊維の種類により異なる染料が使用され、各種の染色が行われている。また、繊維製品の快適性、高性能化を目指し、多くの加工が行われている。それらを解説するとともに、最近の動向を捉え、問題点を挙げ、今後の繊維加工の方向性について考え、修了後、専門分野で活かせるよう指導する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：繊維加工の概要</p> <p>第2回：セルロース系繊維の染色</p> <p>第3回：セルロース系繊維の染色に関する最近の動向</p> <p>第4回：たんぱく質繊維の染色</p> <p>第5回：たんぱく質繊維の染色に関する最近の動向</p> <p>第6回：合成繊維の染色</p> <p>第7回：合成繊維の染色に関する最近の動向</p> <p>第8回：セルロース繊維の加工</p> <p>第9回：たんぱく質繊維の加工</p> <p>第10回：合成繊維の加工</p> <p>第11回：その他の加工</p> <p>第12回：最近の各種加工（吸水・速乾関係・温熱関係）</p> <p>第13回：繊維加工と安全性</p> <p>第14回：総括</p>			
<p>授業外学修：予習1時間、復習・ノート整理1時間</p>			
<p>テキスト：第1回目の授業で指示する。適宜、プリントを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：第1回目の授業で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答え、試験40点。課題に対するレポート提出40点。</p>			
<p>その他：課題やレポートについては自らのフィードバックプロパゲーションにより、思考を深める。</p>			

授業科目名： 繊維加工学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：森 俊夫
<p>授業の到達目標及びテーマ： 繊維加工に関連した海外文献の探し方、読み方、発表の仕方を学ぶ。現在、注目されている繊維加工に関する文献を講読し、研究に応用することを目的とする。修士論文をまとめる場合、また、将来の仕事の中で活用できる応用力を身につける。</p>			
<p>授業の概要： 繊維加工に関連した海外文献の探し方、読み方、まとめ方、発表の仕方を学び、現在どのような研究が進められているか、また、これらの文献を利用した研究の進め方について学ぶ。</p>			
<p>授業計画 第1回：海外文献の検索方法、読み方、発表の仕方の説明 第2回：海外文献の検索 第3回：海外文献1報目の輪読 第4回：海外文献1報目の輪読続き 第5回：海外文献1報目のまとめ 第6回：海外文献2報目の輪読 第7回：海外文献2報目の輪読続き 第8回：海外文献2報目のまとめ 第9回：海外文献3報目の輪読 第10回：海外文献3報目の輪読続き 第11回：海外文献3報目のまとめ 第12回：海外文献の最近の動向 第13回：輪読した文献発表 第14回：総括</p>			
<p>授業外学修：予習1時間、復習・ノート整理1時間</p>			
<p>テキスト：第1回目の授業で指示する。適宜、プリントを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：第1回目の授業で紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答え、試験40点。課題に対するレポート提出40点。</p>			
<p>その他：課題やレポートについては自らのフィードバックプロパゲーションにより、思考を深める。</p>			

授業科目名：被服科学実験	単位数：1単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：濱田仁美
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服科学に関する試験法を学び、正確に測定する技能を身につけ、結果を考察する高度な専門性を修得する。</p> <p>研究活動や就職後の業務に関して、探究心を持って自ら調べて解決する力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主要な被服材料である天然繊維や合成繊維から成る繊維製品を対象として、力学的特性や機能性などの物性評価を行うことを中心に、各自の研究課題に関連した実験に取り組む。</p> <p>服飾美術分野において、繊維製品の試験法を理解し、自ら試験する技能を身につけ、結果を考察する高度な専門性を修得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：実験計画案の策定</p> <p>第2回：関連文献の検索と実験計画の策定</p> <p>第3回：実験計画の確定と具体的な実験方法の指導</p> <p>第4回：予備実験</p> <p>第5回：予備実験結果の報告、本実験方法の決定</p> <p>第6回：本実験</p> <p>第7回：本実験</p> <p>第8回：本実験結果の報告、追実験の指導</p> <p>第9回：追実験</p> <p>第10回：追実験結果の報告、考察</p> <p>第11回：実験結果の取りまとめ</p> <p>第12回：実験結果の考察、ディスカッション</p> <p>第13回：発表資料作成</p> <p>第14回：実験成果の最終発表</p>			
<p>授業外学修：予習1時間、復習1～2時間</p> <p>実験内容に関連した文献を読み、理解しておくこと。次回の実験手順を把握しておくこと。</p> <p>実験後の報告では、実験結果をレポートにして提出すること。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>試験方法のテキストを配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>関連した文献については、必要に応じて指示又は検索の指導を行う。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>実験への取り組み等の平常点40点。報告時のレポート30点。最終発表30点。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名： 被服構成学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：潮田ひとみ
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>健康で快適な衣生活のために、人体－衣服－環境系における、衣服の機能ならびに衣服が健康に及ぼす影響について理解できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人体と衣服とのかかわりを、人の体温調節機構や身体特性、衣服が健康に及ぼす影響、近年開発された機能性衣服の特性から理解させ、着心地のよい被服設計を行うために必要な評価法について概説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：暑さ・寒さと健康</p> <p>第2回：寒い環境に適した衣服</p> <p>第3回：暑い環境に適した衣服</p> <p>第4回：進化する衣服</p> <p>第5回：衣服による圧迫と健康</p> <p>第6回：身体圧迫が健康に及ぼす影響</p> <p>第7回：睡眠と寝具</p> <p>第8回：衣服圧を利用した衣服</p> <p>第9回：皮膚の肌触りと健康</p> <p>第10回：汚れによる衣服の機能低下</p> <p>第11回：心地よい触感</p> <p>第12回：こころを測る</p> <p>第13回：乳幼児の衣服</p> <p>第14回：高齢者・障がい者の衣服</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>予習：該当範囲のテキストの読解（1時間）</p> <p>復習：関連分野の文献調査（1時間）</p>			
<p>テキスト：</p> <p>アパレルと健康，日本家政学会被服衛生学部会編，井上書院</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業の該当回で、必要に応じて呈示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>評価割合は、授業への参加態度40%、演習課題30%、最終レポート30%とする。</p>			
<p>その他：</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

授業科目名：被服構成学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：高水伸子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>求めるデザインを実際に形に表すための裁断法と制作技術の理解を深めることができる。 服飾史や民族衣装、近現代の服飾デザイナーの作品を題材に、布の効果的な扱い方や構造線の決め方、シルエットを保つために重要な土台の制作方法を身につけることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>人間は気候風土に適合する被服材料を工夫し、着装方法と関連付けた制作技術を発展させてきた。その歴史から先人の知恵と、素材の特性や価値観を引き出すテクニックを学び、日常的な衣服から非日常的な舞台衣装までを視野に入れた衣服制作に関して、実践的な知識を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：懸衣 一枚の布と着想の工夫 第2回：寛衣 ゆるみが多く、簡単な裁断と縫製を施す衣服 第3回：窄衣 裁縫密着型の衣服 第4回：人工的にコントロールされるシルエット（コルセット・パニエ・クリノリン・バツル） 第5回：制作技術の伝承と型紙 第6回：異文化の影響(ジャポニズム)を受けた衣服 第7回：バイアスカットの衣服 第8回：透ける素材と垂れる素材の衣服 第9回：伸縮素材を用いた衣服 第10回：オートクチュールについて①(ガイダンス) 第11回：オートクチュールについて②(各自、関心を持ったデザイナーの作品を分析して発表) 第12回：プレタポルテについて①(ガイダンス) 第13回：プレタポルテについて②(各自、関心を持ったデザイナーの作品を分析して発表) 第14回：まとめ：</p>			
<p>授業外学修：予習1時間、復習・ノート整理1時間 第11回と13回については3時間以上</p>			
<p>テキスト：なし 内容に応じてプリントを配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：なし</p>			
<p>学生に対する評価：予習・復習の有無40点。諮問に対する受け答えなどの平常点20点。課題に対するレポート提出40点。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名： 被服構成学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：潮田ひとみ
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>健康で快適な衣生活に関する文献を講読することで、被服構成学特論における知識・理論をより深く理解できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>受講者の研究内容に関連する文献や資料を検索させ、健康で快適な衣生活に役立つ研究論文の講読を行わせる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：衣服と健康との関係について概説する。</p> <p>第2回：日常着の役割と体温調節の方法に関する論文の講読。</p> <p>第3回：肌着やファンデーションの機能と役割、健康に及ぼす影響に関する論文の講読。</p> <p>第4回：寝衣や寝具の機能と役割、健康に及ぼす影響に関する論文の講読。</p> <p>第5回：スポーツウェアの機能と役割、健康に及ぼす影響に関する論文の講読。</p> <p>第6回：宇宙服の機能や機能性繊維の構造と役割に関する論文の講読。</p> <p>第7回：特殊環境で必要とされる衣服素材の構造と役割に関する論文の講読。</p> <p>第8回：身体部位の違いによる機能性衣服の意義に関する論文の講読。</p> <p>第9回：高齢者の体温調節の特徴と生活、衣服の役割に関する論文の講読。</p> <p>第10回：子どもの体温調節の特徴と衣服の役割に関する論文の講読。</p> <p>第11回：皮膚刺激と衛生・健康と衣服との関係に関する論文の講読。</p> <p>第12回：身体圧迫と健康との関係、睡眠と健康との関係に関する論文の講読。</p> <p>第13回：発汗、皮膚血流等の生理測定の方法に関する論文の講読。</p> <p>第14回：総括 健康で快適な衣生活のあり方について討議する。</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>事前学習：関連文献ならびに関連書籍の講読と発表要旨の作成（5時間）</p> <p>事後学習：関連書籍・文献の検索と調査（1時間）</p>			
<p>テキスト：</p> <p>関連文献は受講生が検索、もしくは教員が準備する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業の該当回で、必要に応じて呈示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>評価割合は、授業への参加態度30%、発表の要旨25%、発表内容45%とする。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：被服構成学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：高水伸子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服構成学特論で学ぶ内容を掘り下げ、本学所蔵の稀観書を中心に、英語やフランス語の原文を読む。外国語に慣れ、テーマ性を見出してまとめ、発表する力を身につける。まとめの方法とトワール制作については、受講生の専門分野により相談のうえで具体的に決定する</p>			
<p>授業の概要</p> <p>主に19世紀以降のイギリス、アメリカ、フランスにおける婦人雑誌や衣服制作関連専門書を題材に、受講生同士、輪番制で関連事項を調べ、発表する。資料は主にデジタルアーカイブより閲覧することとし、実際に本学所蔵の稀観書を手にとって閲覧する機会を数回設ける。1/2サイズのトワール制作は、各自のテーマにより、体数及び実施のタイミングを変更することがある。</p>			
<p>授授業計画</p> <p>第1回： 西洋の衣服制作に関するガイダンス（16～20世紀）</p> <p>第2回： 研究論文の紹介と論文検索について</p> <p>第3回： 稀観書の輪読①</p> <p>第4回： 稀観書の輪読②</p> <p>第5回： 稀観書の輪読③</p> <p>第6回： 稀観書の輪読④</p> <p>第7回： 中間発表</p> <p>第8回： 稀観書の輪読⑤</p> <p>第9回： 稀観書の輪読⑥</p> <p>第10回： 稀観書の輪読⑦</p> <p>第11回： 稀観書の輪読⑧</p> <p>第12回： 1/2サイズのトワール制作(自由課題) 1－試行錯誤と試作</p> <p>第13回： 1/2サイズのトワール制作(自由課題) 2－仕上げと提出</p> <p>第14回： まとめ</p>			
<p>授業外学修：予習1時間、復習とノート整理1時間</p> <p>英語及びフランス語の基本的な服飾用語を覚えること</p>			
<p>テキスト：なし 内容に応じてプリントを配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：必要に応じて提示する</p>			
<p>学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答え等の平常点20点。課題の出来映え60点。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：被服構成学実験	単位数：1単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：潮田ひとみ
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服構成学特論での知識・理論をもとに、実験やその評価・解析を通して、健康で快適な衣生活のあり方について理解を深めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>受講生の研究テーマに応じて、実験内容は適宜調整する。</p> <p>着用快適感といった快適性の評価法にかかわる測定器具の扱い方やデータ解析の方法、質問紙調査法・官能評価によるデータ収集の方法とその評価の方法について理解させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：衣服と健康について概説し、衣服圧が健康に及ぼす影響について実験する。</p> <p>第2回：衣服材料の分別方法について調査、報告し、方法について検討する。</p> <p>第3回：調べた方法を用いて衣服材料の分別を行い、簡便な方法を開発する。</p> <p>第4回：衣服素材の吸湿・吸水性の測定方法について実験方法を検討する。</p> <p>第5回：衣服素材の吸水性・吸湿性に関する測定を行う。</p> <p>第6回：衣服素材の吸湿・吸水性能が快適性に及ぼす影響について議論する。</p> <p>第7回：官能検査の方法について学び、実践により習得する。</p> <p>第8回：動作に伴う身体の伸縮について測定し、快適な衣服設計について検討する。</p> <p>第9回：皮膚への刺激が健康に及ぼす影響について測定法を検討する。</p> <p>第10回：皮膚への刺激が健康に及ぼす影響について実験と評価を行う。</p> <p>第11回：着用快適性の測定方法について調査する。</p> <p>第12回：着用快適性測定法の目的と適用範囲について理解し、熱水分移動特性を測定する。</p> <p>第13回：加圧時の着用快適感を官能検査によって測定・評価する。</p> <p>第14回：総括：快適な衣生活のための評価方法について、議論し、総括を行う。</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>事前学習：実験内容について理解しておく。(30分)</p> <p>事後学習：実験レポートの作成と返却後のレポートの内容の理解と修正。(作成3時間)</p>			
<p>テキスト：</p> <p>内容に応じて配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>内容に応じて配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>評価割合は、実験への参加態度40%、実験レポート60%とする。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：被服構成学実験	単位数：1単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：高水伸子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>立体裁断により、布地の経糸と緯糸がどのようにシルエットの保持に影響しているか実物制作を前提として調べる。主に特殊素材(伸びる布、垂れる布、地の目が動きやすい布など)を用いて、実際に着用できるアイテムのトワールを作成し、適切な構造線をさぐり、デザイン線を決めてパターンを完成させる作業を通して、衣服の立体構成技術を高めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>審美性と機能性を兼ね備えた衣服を制作する技術を研鑽し、造形学服飾美術分野の学位授与方針に基づき創作の専門家として産業や舞台美術などの方面で貢献できる力を修得する。基本的な立体裁断技術は既に修得していることを前提とし、授業は夏期休暇中に連続して4日間集中とする(日時は相談の上で最終決定する)。必要な道具は、各自で持参すること(シルクピン、ピンクッション、製図用筆記具、方眼定規、裁ちばさみ、しつけ糸、手縫い用針)</p> <p>使用する素材について、実費がかかります。</p>			
<p>授業計画 通常授業14回分を4日に分けて実施する。</p> <p>第1日および第3日 1～4時限 第2日および第4日 1～3時限</p> <p>第1日 特殊素材①(ニット地) 第1回目</p> <p>伸びる布の例として、特殊素材(ニット地)を取り上げる。経方向にも緯方向にも伸縮性があるため織物素材と扱い方が異なることを学ぶ。よこ段のわかりやすいニット地を用いて、各自、デザインを模索しながらトワールを作成する。</p> <p>第2日 特殊素材①(ニット地) 第2回目</p> <p>第1回目の内容を継続して行う。各自、トワールの問題点を発見し、その解決方法を考えて修正し、完成パターンを作成する。</p> <p>第3日 特殊素材②(ジョーゼット) 第1回目</p> <p>垂れやすい布の例として、ジョーゼットを取り上げる。経糸と緯糸が滑りやすい性質があるため、独特の胸ぐせ処理や、経時変化後の修正方法などを中心に学ぶ。まずはシーチングで土台となるトワールを作成し、その上に課題素材をのせて立体裁断し、トワールを作成する</p> <p>第4日 特殊素材②(ジョーゼット) 第2回目</p> <p>第1回目の内容を継続して行う。各自、トワールの問題点を発見し、その解決方法を考えて修正し、完成パターンを作成する。</p>			
<p>授業外学修：予習10分(授業用布の下処理)</p> <p>復習時間には授業時間で作成しきれなかったトワールを完成させる(1時間～)・ノート整理30分</p>			
<p>テキスト：なし</p>			
<p>参考書・参考資料等：『パターンメイキングの原理』(大野順之助著)</p>			
<p>学生に対する評価：課題への取り組みの姿勢とできれば80点。諮問に対する受け答えやノートなどの平常点20点。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：アパレル設計学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：田中早苗
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種の人体形態把握法を理解し直接法の計測ができる 2. 計測データを用いて基礎的な統計解析ができる 			
<p>授業の概要</p> <p>グローバルな視点でアパレルのサイズをとらえるためには世界共通の人体形態把握法の理解が不可欠である。3D計測が一般化する現代こそ、計測点や計測部位の専門的知識が求められる。授業の前半は人体計測法を学び、後半は計測データを用いて基礎的な統計解析を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回： JISとISOの人体計測法</p> <p>第3回： 3D計測の実地調査</p> <p>第4回： 計測点と計測項目</p> <p>第5回： マルチン計測器による計測 高径・横径</p> <p>第6回： マルチン計測器による計測 周囲長他</p> <p>第7回： 人体計測値の精査</p> <p>第8回： 体形分析に関する一般研究の講読 -1</p> <p>第9回： 体形分析に関する一般研究の講読 -2</p> <p>第10回： 人体計測値の精査,</p> <p>第11回： EXCELによる統計解析 -1 データ項目の設定</p> <p>第12回： EXCELによる統計解析 -2 人口推定による重み付け</p> <p>第13回： EXCELによる統計解析 -3 ヒストグラムと相関図</p> <p>第14回： 解析結果のレポート提出</p>			
<p>授業外学修：EXCELの表計算とグラフ作成の基本を習得しておく</p> <p>予習60分(1時間)、復習60分(1時間)</p>			
<p>テキスト：適宜資料を配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p>			
<p>学生に対する評価：作成したファイルとレポート 80%、平常点 20%</p>			
<p>その他：</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

授業科目名：アパレル設計学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：田中早苗
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>アパレル3DCADでデザインパターンとプロダクトパターンの作成、3Dチェックなどの基本操作ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>アパレルのグローバル展開を見据える3DCADは、システムの高度化と操作技術者の育成が課題とされる。学部で学んだ2DCADの操作技術を活かして3DCADの機能と操作を学ぶことにより、元原型やファーストパターン、ドレーピングの基礎技術への知見を促すことを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回： オリエンテーション、アパレルCADシステムの過去と未来</p> <p>第2回： 2DCADの操作復習</p> <p>第3回： 例題による3DCADの操作練習 -1</p> <p>第4回： 例題による3DCADの操作練習 -2</p> <p>第5回： 資料収集、原型・アイテムの選定</p> <p>第6回： 原型のスキャンニング・トレース</p> <p>第7回： デザインパターンの作成 -1</p> <p>第8回： デザインパターンの作成 -2</p> <p>第9回： マスターパターンの作成</p> <p>第10回： 3Dデザインチェック</p> <p>第11回： パターン修正</p> <p>第12回： トワール組み立て</p> <p>第13回： トワールチェック、3Dと比較評価</p> <p>第14回： まとめ レポート提出</p>			
<p>授業外学修：2DCADの操作復習、課題は授業時間内では終わらないので授業は進捗報告とする 予習60分(1時間)、復習120分(2時間)</p>			
<p>テキスト：適宜資料を配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p>			
<p>学生に対する評価：作成したファイルとレポート80%、平常点20%</p>			
<p>その他：</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

授業科目名： 和服造形学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：寺田恭子
授業の到達目標及びテーマ 明治時代以降の和服の変遷を把握し、現在の和服について理解することができる。			
授業の概要 私達の祖先は季節感豊かな四季に恵まれた風土の中で、季節ごとに最も適した生地、色彩、紋様の衣服を身につけてきた。和服の持つ美しさ、合理性、機能性、また和服独自の構成方法などはヨーロッパ世界に強い印象を与え、ファッションデザインに大きな影響を与え続けてきた。 これらの和服の伝統的な流れに着目し、明治時代以降に普及した女物について、社会的、経済的な影響を受けながら流動的に変化してきた様子を文献や標本、映像を通して考察し、専門的知識を修得する。			
授業計画 第1回：第1回：概要 第2回：和服の変遷（明治、大正、昭和） 第3回：和服の種類と格 第4回：和服地の種類と季節 第5回：染織について（1）絞り染め、友禅染め、江戸小紋 第6回：染織について（2）長板中形、注染 第7回：染織について（3）紬 第8回：染織について（4）お召、銘仙、芭蕉布 第9回：紋様の種類と意味、模様付けについて 第10回：和服の構成について（長着、長襦袢など） 第11回：和服の構成について（羽織ものなど） 第12回：和服の構成について（帯など） 第13回：和服の着装方法について 第14回：まとめ、解説			
授業外学修：予習1時間、復習1時間 配布資料を事前に読んでおく。 日本服飾文化史、和服論の復習をしておく。			
テキスト：なし 資料プリント配布			
参考書・参考資料等： 渡辺学園裁縫雛形コレクション・雛形標本			
学生に対する評価： 平常点20%、小課題30%、レポート50%			
その他：			

R3 シラバス 造形学専攻

授業科目名： 和服造形学演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：寺田恭子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>多種多様な和服構成技術を習得し、和服の様々な種類別による構成方法を理解し応用することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>和服造形学特論で学んだ理論をより深く理解するために、文献や標本をもとに、多種多様な構成技術やその応用について具体的に演習を行う。</p> <p>長い歴史の中で完成された和服は、創造的、文化的価値が高く、種類や格、素材や構成方法など多くの種類がある。長着や長襦袢や羽織などの種類別、絵羽模様や付け下げや小紋などの格別、絹や毛織物や木綿や麻などの素材別、袷や単衣などの構成別などの造形方法を理解する。また和服の着装を体験して、体形と寸法、和服独自の直線を主体とする構成を理解し、実践できる技能を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：概要</p> <p>第2回：和服の種類別構成方法の解説</p> <p>第3回：長着袖の構成について（袷・単衣）</p> <p>第4回：長着袖の構成について（素材別）</p> <p>第5回：長着身頃の構成について（袷・単衣）</p> <p>第6回：長着身頃の構成について（素材別）</p> <p>第7回：長着衿の構成について（袷・単衣）</p> <p>第8回：長着衿の構成について（素材別）</p> <p>第9回：格別の構成について</p> <p>第10回：帯の構成について</p> <p>第11回：着装をして体形と寸法、着心地の評価をする（長襦袢と長着）</p> <p>第12回：着装をして体形と寸法、着心地の評価をする（長着・帯）</p> <p>第13回：体形に適した寸法設定について</p> <p>第14回：まとめと解説</p>			
<p>授業外学修：予習1時間、復習1時間</p> <p>和服造形学特論を復習しておく。</p>			
<p>テキスト：なし</p> <p>資料プリント配布</p>			
<p>参考書・参考資料等：なし</p> <p>渡辺学園裁縫雛形コレクション</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点30%、演習課題50%、レポート20%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：服飾工芸演習	単位数：2単位	選択： (中・高専(家庭))	担当教員名：大塚有里
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>刺繍、編物、レースの知識と技法を理解した上で、その特性を生かした小物やサンプラー制作を行い、装飾における多様な表現方法、創作方法を学ぶことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>世界各地には独自の様式を持つ多くの服飾工芸が存在している。その中から刺繍、編物、レースを取り上げ、代表的な種類や技法の知識の習得に努め、その技法に適した基布、糸、針、道具を操り、ステッチや編目などを施した小物やサンプラー作りを体験しながら、服飾における多様な表現方法、創作方法を学ぶ。最終的にはそれらを応用して発展させた作品制作を期待したい。また、デザイナーのコレクション等の中に服飾工芸的要素がどのように表現されているのかも探りたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：刺繍について（欧風刺繍と日本刺繍）</p> <p>第2回：線、点、面を表すステッチとその他のステッチについて</p> <p>第3回：装飾材料（ミラー、スパングル、ビーズ等）について</p> <p>第4回：刺繍サンプラーをまとめる、ポートフォリオ作成1</p> <p>第5回：レースについて（刺繍からレースへ）</p> <p>第6回：かぎ針、シャトル、シートのいずれかを使用したレース作品の自由制作</p> <p>第7回：かぎ針、シャトル、シートのいずれかを使用したレース作品の仕上げ方法</p> <p>第8回：レース作品をまとめる、ポートフォリオ作成2</p> <p>第9回：編物（JIS記号、ゲージ、作り目等）について</p> <p>第10回：素材作り（糸紡ぎなど）</p> <p>第11回：ハンドウォーマー制作（紡ぎ糸または市販糸でゲージをとる）</p> <p>第12回：ハンドウォーマー制作（かぎ針編みの装飾、仕上げ方法）</p> <p>第13回：編物作品をまとめる、ポートフォリオ作成3</p> <p>第14回：コレクションにおけるデザイナーの作品について、作品発表、まとめ</p>			
<p>授業外学修：服飾工芸関連の文献を読む。その回の内容は次週に持ち越さないように取り組む。</p>			
<p>テキスト：特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：内容に応じてプリントを配布する。または紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価：提出物（作品、ポートフォリオ）50%、発表を含む学習態度50%とする総合評価</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：服飾文化史特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：沢尾 絵
授業の到達目標及びテーマ 服飾史研究における資料の多様性について理解を深め、資料収集・分析・活用の方法を身につける。			
授業の概要 服飾・染織に関わる文化史研究では扱う資料の範囲が多岐にわたる。本講義では江戸時代の小袖意匠と染織技法に注目し、現存する実物資料、版本、絵画、技法書・教養書・小説などの文献、同時代の工芸品を研究資料として、これらの調査・分析方法について論じる。また、各資料研究から得られる事象を服飾史の視点からどのように位置づけることができるのか、併せて明確にしていく。履修者は、資料の分析を試行することで研究の手法を学び、服飾文化研究への理解を深める。また、展覧会見学を通して実物資料の活用についても考えていく。			
授業計画 第1回：イントロダクション：江戸時代の服飾資料の範囲と先行研究 第2回：小袖服飾の変遷に見る近世の染織技法と社会的背景 第3回：小袖服飾研究の特徴と変遷 第4回：江戸時代の絵画資料と小袖服飾 第5回：初期風俗画に描かれる文様の概観 第6回：江戸時代の出版文化と服飾資料 第7回：小袖雛形本①小袖雛形本の特徴と研究課題 第8回：小袖雛形本②文様研究 第9回：小袖雛形本③染織技法 第10回：文様の比較検討①初期風俗画と小袖雛形本 第11回：文様の比較検討②桜の文様と工芸品 第12回：文様の比較検討③服飾に見る桜の文様 第13回：染色技法書・呉服資料研究 第14回：総括			
授業外学修： 配布する資料を事前に読んでおく。テーマにより、指定された箇所については調査しておく。			
テキスト： 特になし			
参考書・参考資料等： 随時紹介する			
学生に対する評価： 授業への取り組み・発表 (40%) レポート (60%)			
その他：学修する研究手法や考え方を自身のテーマに置き換えて捉えなおす習慣をつけること。			

授業科目名：服飾文化史演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：沢尾 絵
授業の到達目標及びテーマ 服飾文化史研究に必要な染織品に関する知識を修得し、資料選択・研究・分析の方法を身につける。			
授業の概要 日本の服飾史を支えてきた染織品には、アジアをはじめとする諸外国・地域と共通する技法が多く存在する。ここではまず、アジアという視点から染織に関する基礎的事項を確認し、改めて日本の染織品の特質を理解する。後半は特に日本の江戸時代に着目し、雛形本や教養書・解説書等を読み進め、当該期の服飾文化を探る資料の多様性や方法論を学ぶ。履修者はあらかじめ担当箇所の翻訳・解説の解題を準備し、これをもとに発表形式で進めていく。また、展覧会見学を通じて実物資料にも数多く触れ、服飾・染織史的な視点から考察する方法を身につける。			
授業計画 第1回：イントロダクション—服飾文化史研究の資料と捉え方— 第2回：文献購読①素材（皮、毛、絹） 第3回：文献購読②素材（木綿、麻、樹皮、その他） 第4回：文献購読③織物（平織、斜文織、縺子織） 第5回：文献購読④織物（浮紋織、二重織、錦、緞子など） 第6回：文献購読⑤染物（藍染、絞り染、紺） 第7回：文献購読⑥染物（蠟防染・糊防染） 第8回：文献購読⑦小袖雛形本（文様と色彩） 第9回：文献購読⑧小袖雛形本（染織技法） 第10回：文献購読⑨染色技法書（染色名称） 第11回：文献購読⑩染色技法書（技法） 第12回：文献購読⑪萬金産業袋（染織品の種類） 第13回：文献購読⑫萬金産業袋（染織品の流通） 第14回：文献購読⑬訓蒙図彙（江戸時代の衣生活：女性の服飾文化） ※文献購読①～⑥では英文、⑦～⑬では かな文字を扱う。			
授業外学修：事前に配布する文献を読んで調べ、内容をまとめ、解題を作る。 授業で新たに学んだ専門用語（英単語・かな文字の読み方）は、資料と共にまとめる。			
テキスト：特になし			
参考書・参考資料等： 随時提示する			
学生に対する評価： 平常授業での取り組み70%、レポート30%			
その他： 授業内容に即した展覧会を紹介する場合には必ず観覧する。			

授業科目名：服飾文化史演習Ⅱ	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：沢尾 絵
授業の到達目標及びテーマ 服飾文化史の研究方法を修得する。また、研究内容を客観的に評価し、自身の研究に応用する。			
授業の概要 日本およびアジアの服飾・染織文化史に関する論文の講読を行う。履修者は大学および博物館・美術館の紀要、学会誌掲載論文を講読し、これをまとめて発表および議論を行う。その過程において、研究テーマの設定、研究方法、資料の検証、論文の構成、研究論文に適した表現方法などを修得していく。また最新の研究動向を自ら探索し、客観的な評価を行うことで、自身の研究に応用する力を養う。			
授業計画 第1回：イントロダクション：研究論文の種類と特質、選定の方法 第2回：論文講読①大学紀要 先行研究とテーマ設定 第3回：論文講読②大学紀要 研究方法（資料）と論文構成 第4回：論文講読③大学紀要 類似研究と手法の比較 第5回：論文講読④美術館・博物館紀要 先行研究とテーマ設定 第6回：論文講読⑤美術館・博物館紀要 研究方法（資料）と論文構成 第7回：論文講読⑥美術館・博物館紀要 類似研究と手法の比較 第8回：論文講読⑦学会誌掲載論文1－1 研究内容の紹介 第9回：論文講読⑧学会誌掲載論文1－2 研究内容の検証・評価 第10回：論文講読⑨学会誌掲載論文2－1 研究内容の紹介 第11回：論文講読⑩学会誌掲載論文2－2 研究内容の検証・評価 第12回：論文講読⑪学会誌掲載論文3－1 研究内容の紹介 第13回：論文講読⑫学会誌掲載論文3－2 研究内容の検証・評価 第14回：論文講読⑬研究テーマ別 学術論文の内容紹介・検証・評価			
授業外学修：準備学修として、関連する研究論文および資料の収集・分析を行い、解題を作る。 復習として、自身の研究テーマに置き換えた際のアプローチの仕方を考え、まとめる。			
テキスト： 特になし			
参考書・参考資料等： 随時紹介する。			
学生に対する評価： 平常授業での課題（準備・発表）70%、まとめのレポート30%			
その他： 取り扱う論文は、履修者の研究テーマ・理解度により随時提示する。			

授業科目名：染織史特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：須藤良子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>大学院生が染織に関する知識を学び、各染織品類の素材・技法・制作地域・制作時期などを分類できるように指導する。染織は様々な素材からなり、技法も地域や国によってさまざまなである。制作地域や制作時期によっても特徴が異なる。この授業ではこれらを総合的に学び、各時代、各地域の染織の特徴を学ぶことを目的としている。特にアジア地域では地域により有機的に継承された技法を見ることができると、アジア各地域の特徴的な染織について学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、インドをはじめ、ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム、インドネシアなどの染織品について、その素材、技法などについて学ぶ。また各地域でどのように技法が発達し、それがどのように他地域へ伝播していったのかなどの事象を、実物資料を観察しながら関係づけ、染織の多様性について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：染織とは何か</p> <p>第2回：染織の素材</p> <p>第3回：染織の技法</p> <p>第4回：インドの染織1</p> <p>第5回：インドの染織2</p> <p>第6回：ミャンマーの染織</p> <p>第7回：タイの染織1</p> <p>第8回：タイの染織2</p> <p>第9回：ラオスの染織</p> <p>第10回：カンボジアの染織</p> <p>第11回：ベトナムの染織</p> <p>第12回：インドネシアの染織1</p> <p>第13回：インドネシアの染織2</p> <p>第14回：総括</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>各地域の染織品について各自であらかじめどのような技法の染織品があるのかを調べておく（1時間）。授業後は素材や技法について復習し、小課題として提出する（1時間）。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>授業ごとに参考資料を提示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>授業ごとに参考資料を提示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点30%、小課題20%、レポート50%</p>			

その他：

授業科目名： ファッション情報学特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：松木孝幸
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>150年分のオンライン雑誌データPunchを用いたDigital Humanities、データマイニング、データベース検索、TF-IDF、形態素解析、対応分析、共起ネットワーク等について各単語の意味を理解し、どのような意味を持っているか述べる事が出来る。具体的には、データをデータベースに格納する方法と利用方法、多変量解析における重回帰分析のやり方を学び、多くの変数に依存したデータの解析方法を理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>服飾美術分野の研究を遂行してゆくために必要となる情報あるいはデータの取り扱い方、得られたデータに対する統計学の利用(統計処理)あるいは方法論について述べる。具体的には、データをデータベースに格納する方法と利用方法、多変量解析における重回帰分析のやり方を学び、多くの変数に依存したデータの解析方法を学ぶ。さらにパソコン上ではExcel、SPSSなどを利用してこれらの方法論がどのように実現されるかを学び、具体例を用いてこの分野に必要な知識を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：服飾美術分野におけるデータベースの活用法とデータの統計処理(ガイダンス)</p> <p>第2回：服飾美術分野のデータの種類と作成ツールについて</p> <p>第3回：データに対するメタデータ(属性)の付与の仕方</p> <p>第4回：データベースについて</p> <p>第5回：テーブルからのレコードの抽出</p> <p>第6回：複数のテーブルの作成とそれらの関係(リレーショナルデータベース)</p> <p>第7回：データの統計処理について</p> <p>第8回：データの分析と可視化</p> <p>第9回：正規分布</p> <p>第10回：標本分布</p> <p>第11回：2変数相関(多変量解析)</p> <p>第12回：重回帰分析</p> <p>第13回：各種検定(t検定とF検定)について</p> <p>第14回：総合評価</p>			
<p>授業外学修：予習1時間 復習1時間</p> <p>基本的な用語操作については承知しておくこと。</p>			
テキスト：ハンドアウト			
参考書・参考資料等：特になし			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業態度(30%)、レポート(40%)、討議(30%)</p>			
その他：平常点と報告書			

R3 シラバス 造形学専攻

授業科目名： ファッション情報学演習	単位数：2単位	選択 (高専(家庭))	担当教員名：松木孝幸
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>知識：オンライン上の各種ソフトウェアの使い分けができる。</p> <p>技能：造形学専攻において必要なソフトウェアを適宜選択して使いこなせる。</p> <p>態度：適切なデータの選択を互いに尋ね合い、議論することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ファッションに関する研究・教育には、多様な関係資料の活用が不可欠であり、近年ではそのデータベース化が強く望まれている。この授業では、服飾美術分野のデータを実際に扱って、ネットワークを利用したデータベースの利用法を学ぶ。今日、ネットワークは、時間と場所を超えて情報を共有できるネットワークサービスの利用に人々の関心が集まり、ユビキタス社会という言葉も人々の心を捉えている。一方、データを素早く検索できるデータベースも現代には無くてはならない情報技術である。必要に応じて、データベース内のデータをブラウザに表示する演習も行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ネットワークサービスと服飾関連情報の共有・発信（ガイダンス）</p> <p>第2回：ネットワークを経由したコンピュータの操作（Telnet、WinSPC）</p> <p>第3回：ネットワークサービスの仕組み（クライアント・サーバ形式）</p> <p>第4回：ネットワークによる服飾関連情報の共有（Webサーバによるサーバ資源の利用）</p> <p>第5回：データベースについて</p> <p>第6回：キーワードによるレコードの検索</p> <p>第7回：ネットワークを介したデータベースへのアクセス</p> <p>第8回：LinuxあるいはWindows OS上での実際の演習（テーブルの作成）</p> <p>第9回：テーブルからの服飾関連レコードの抽出</p> <p>第10回：複数のテーブルの作成とそれらの関係（リレーショナルデータベース）</p> <p>第11回：ネットワークからのテーブルへのアクセス方法</p> <p>第12回：服飾関連検索ホームページの作成1（HTMLによる外枠の作成）</p> <p>第13回：服飾関連検索ホームページの作成2（ODBCによるデータベースとの接続）</p> <p>第14回：総合評価・まとめと解説</p>			
<p>授業外学修：予習1時間 復習1時間</p> <p>その単元の内容について自分なりの考えをまとめて討議に臨むこと</p>			
<p>テキスト：なし</p>			
<p>参考書・参考資料等：「できるAccess 2016」</p>			
<p>学生に対する評価：授業態度(30%)、レポート(40%)、討議(30%)</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：服飾デザイン特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：石田恭嗣
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 衣服をさまざまな視点から考察することができる 2. 衣服を造形学的な観点から述べるすることができる 			
<p>授業の概要</p> <p>デザインを考える上で時代性や社会性といった外的要因は、流行との関係において重要である。それらを考慮しながら衣服のデザインは行われている。また、衣服は人体を覆うものであることから、人体との関係についても考える必要がある。衣服は外部環境と内部環境（身体）の境界に存在し、さまざまな目的を達成するための機能や装飾、デザインが生まれた。</p> <p>ここでは、さまざまな時代で流行するデザインや建築様式、芸術との関係から服飾デザインを造形的観点から考察する。また、デザイナーの表現から服飾デザインに対する考え方などについて学ぶ。この授業は学生とのコミュニケーションを重視し、アクティブラーニングの手法を取り入れて行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：古代エジプト、古代ギリシャ、古代ローマ</p> <p>第3回：ビザンチン、ロマネスク</p> <p>第4回：ルネサンス</p> <p>第5回：バロック、ロココ、新古典主義</p> <p>第6回：ビクトリア様式</p> <p>第7回：アール・ヌーボー、アール・デコ</p> <p>第8回：美術と被服 バウハウス</p> <p>第9回：美術と被服 現代美術</p> <p>第10回：ファッションデザイナーの試み フォルチュニ、ポワレ、ヴィオネなど</p> <p>第11回：現代のファッションデザイナーの試み（1）三宅 一生</p> <p>第12回：現代のファッションデザイナーの試み（2）川久保 玲</p> <p>第13回：現代のファッションデザイナーの試み（3）山本 耀司</p> <p>第14回：まとめ</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>服飾史、建築史、デザイン史についての書籍を読む。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>参考書については適宜指示、資料等は配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点30%、レポート、プレゼンテーション70%で評価する。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：服飾デザイン演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：石田恭嗣
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>衣服を造形要素の基本である形、色、テクスチャをテーマとする着装可能なオブジェ制作を通して衣服のデザインについて新たな視点から考えることができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>服飾において経済性、ファッション性などの実用的な観点からだけではなく、造形的な側面から衣服について考えることで、より質の高い衣服のデザインを行うことができる。衣服を造形の基本要素である形、色、テクスチャに分解し、各要素が衣服と身体、衣服と環境のなかでどのように作用または関係しているのかを考察する。そして、それらを総合することで目的に応じたデザインを生み出すことができる。</p> <p>ここでは、造形の基本要素である形、色、テクスチャそれぞれをテーマとした着装可能なオブジェを制作し、各回の最後にテーマやコンセプトを発表してもらう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：造形の基本要素、構成形式について</p> <p>第2回：色をテーマとしたオブジェ制作（1）色の特性</p> <p>第3回：色をテーマとしたオブジェ制作（2）イメージと色</p> <p>第4回：色をテーマとしたオブジェ制作（3）色と衣服の関係</p> <p>第5回：プレゼンテーション</p> <p>第6回：テクスチャをテーマとしたオブジェ制作（1）テクスチャの特性</p> <p>第7回：テクスチャをテーマとしたオブジェ制作（2）イメージとテクスチャ</p> <p>第8回：テクスチャをテーマとしたオブジェ制作（3）テクスチャと衣服の関係</p> <p>第9回：プレゼンテーション</p> <p>第10回：形をテーマとしたオブジェ制作（1）形の特性</p> <p>第11回：形をテーマとしたオブジェ制作（2）イメージと形</p> <p>第12回：形をテーマとしたオブジェ制作（3）形と衣服の関係</p> <p>第13回：プレゼンテーション</p> <p>第14回：まとめ</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>服装史で扱われる代表的な衣服を造形的観点から観察する。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>参考書については適宜指示、資料等は配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点20%、各課題とプレゼンテーション80%で評価する。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：色彩表現論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：石田恭嗣
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>被服や被服を取り巻くさまざまな事象との関連において、色彩表現の役割やはたらきについて述べることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>色は身近な存在であるため、色の本質について考えられることは少ない。また、色に関する知識がなくても誰もが自由に扱うことができる。そのようなことから、色は感覚的に使われる傾向が高い。しかし、イメージや情報の伝達において色の知識は重要であることから、色の基本を学ぶことから初め、さまざまな表現のなかで使われている色のはたらきや効果について考える。</p> <p>この授業は学生とのコミュニケーションを重視し、アクティブラーニングの手法を取り入れて行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：科学的な側面からの色の研究について</p> <p>第3回：現象学的側面からの色の研究について</p> <p>第4回：表色系について</p> <p>第5回：シュブルール、ルードなどの色彩調和論について</p> <p>第6回：色彩表現について（1）パーソナルカラー</p> <p>第7回：色彩表現について（2）トレンドカラー</p> <p>第8回：色彩表現について（3）民族、環境と色</p> <p>第9回：色彩表現について（4）芸術表現と色彩</p> <p>第10回：色彩表現について（5）コレクションにおける色彩表現</p> <p>第11回：色彩表現について（6）ディスプレイデザイン</p> <p>第12回：色彩表現について（7）ブランドイメージ</p> <p>第13回：色彩表現について（8）さまざまなメディアでの広告</p> <p>第14回：まとめ</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>色彩学関連の書籍を読む。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>特になし</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>参考書については適宜指示、資料等は配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>平常点30%、レポート、プレゼンテーション70%で評価する。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名： 服飾デザイン表現演習	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：桃木美恵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 衣服のフォルムとコーディネート、ファッションデザイン画で表現する技術を習得し、描く事ができる。 2. ファッショントレンドを収集・分析し、調査する事によりファッションデザインのテーマ・メッセージを伝える視覚伝達力を高め、年代毎のファッション傾向を分析できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ファッションデザイン画の表現方法として、人体プロポーション・クロージング・彩色・マテリアル等、服の構造等の基本を把握した上で、アイテムコーディネートを学ぶ。更に、トレンド分析し調べる事によりファッションデザインの可能性を探る。ファッションイメージを具体的に表現する技術を身に付け、感性をデザインへと展開する応用力を修得する事を学位授与の方針とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業内容説明 人体プロポーションの描き方 正面向き直立 ポーズ及びクロージング</p> <p>第2回： 人体プロポーションの描き方 正面向き片脚重心ポーズ及びクロージング</p> <p>第3回： 人体プロポーションの描き方 斜め向き向き1 ポーズ及びクロージング</p> <p>第4回： 人体プロポーションの描き方 斜め向き向き2 ポーズ及びクロージング</p> <p>第5回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 1 Classic</p> <p>第6回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 2 Modern</p> <p>第7回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 3 Feminine</p> <p>第8回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 4 Active</p> <p>第9回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 5 Masculine</p> <p>第10回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 6 Conservative</p> <p>第11回：ファッション雑誌を参考に、S/Sトレンド資料の分析とドローイング 7 Avant-garde</p> <p>第12回：トレンド分析した資料の纏め、及び構成を試作する</p> <p>第13回：トレンド分析した資料をMAPとして作品制作 する</p> <p>第14回：トレンド分析 デザイン傾向を分析し、全体を纏める</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>【受講開始前】本演習開始前に、20分程度の前回の復習をし、疑問点がある場合は質問の用意をしておく事。</p> <p>【受講開始後】毎回の演習毎に、内容要約メモをしておく事。また、次回の課題指示に従って40分程度の資料収集を進めておく事。</p>			
テキスト：なし。			
参考書・参考資料等：ファッション雑誌・資料プリント配布			
学生に対する評価：予習準備（課題の取組み）20%、作品制作提出 70%、受講態度10%			
その他：画材は、シャープペンシル、消しゴム、ポイントペン、画用紙、彩色画材など。			

授業科目名： デジタルデザイン特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：宮本真帆
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>大学院修士課程造形学専攻における専門的知識習得としてデジタルメディアの歴史と表現の多様性を知り、その特性を評価・分析し深く理解する事で実践時に効果的なデザイン計画を立案できる能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>メディア表現の分野は広範にわたり、発達するテクノロジーは生活様式や価値観を多様化させ多彩にまた細分化し日々進化して行く。この授業ではデジタルメディアの発達過程と過去から現在までの多様な作品を検証し、現代社会に於けるデジタルメディアの役割とデザイン面の特性を隣接分野との関係を踏まえ研究する。そしてデジタルメディアデザインにとって要となる点について個々に考察し、高度なデザイン計画に不可欠な知識を得る。造形学専攻の学位授与方針に基づき、デジタルメディアを社会と人の生活に役立てるためのデザイン表現について考察し、これを実践できる専門的能力を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概説とデザイン理論について</p> <p>第2回：デジタルメディア発達史概略</p> <p>第3回：デジタルメディア表現の事例研究（1）古典的事例</p> <p>第4回：デジタルメディア表現の事例研究（2）特徴的事例</p> <p>第5回：レポート作成「デジタルメディア表現の事例調査と分析」</p> <p>第6回：レポートの評価及び検討</p> <p>第7回：インタラクティブデザインとは</p> <p>第8回：モーショングラフィックスとの関連</p> <p>第9回：現代アートとの関連</p> <p>第10回：ユーザ・インタフェース・デザインの実際</p> <p>第11回：ユーザ・インタフェース・デザイン史</p> <p>第12回：次世代のデジタルメディアとデザイン</p> <p>第13回：レポート作成（テーマは各自設定）</p> <p>第14回：レポートの評価及び検討と今後の展望</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリント等はその都度配付する。PDFファイルはサーバーからダウンロードすること。</p>			
<p>参考書・参考資料等：特になし</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>課題レポート40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%</p>			
<p>その他：特になし</p>			

授業科目名： デジタルデザイン演習I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：宮本真帆
授業の到達目標及びテーマ 現実的・実際的なデジタルメディアのデザイン能力を習得し、インタラクティブデザインの特性を生かしたコンテンツの制作が工夫できる。様々なデジタルメディア表現に応用できるデザイン力と専門知識を習得し、高度なデザイン制作ができる能力を養う。			
授業の概要 多様・細分化されたメディア表現活動について考察し、ネット空間におけるメディア表現をWEBを対象に研究する。特に情報コンテンツの構成とユーザ・インタフェース、インタラクションの関わりについて評価・分析し、一般的問題点を抽出した上で、これに対して実際的な解決策を模索し、最終的に独自のWEBデザインモデルを考案し試作する。			
授業計画 第1回：授業の概説 第2回：ネット空間におけるメディア表現の考察 第3回：メディア表現制作演習（1）情報コンテンツと基本ユーザ・インタフェース 第4回：メディア表現制作演習（2）情報コンテンツとユーザ・インタフェースの特性 第5回：メディア表現制作演習（3）情報コンテンツとユーザ・インタフェースの技術 第6回：メディア表現制作演習（4）デジタルデザインとインタラクションの基本 第7回：メディア表現制作演習（5）デジタルデザインとインタラクションの特性 第8回：メディア表現制作演習（6）デジタルデザインとインタラクションの技術 第9回：課題制作（1）WEBデザインモデルの発案 第10回：課題制作（2）WEBデザインモデルの検討 第11回：課題制作（3）WEBデザインモデルの試作・原案 第12回：課題制作（4）WEBデザインモデルの試作・展開案 第13回：課題制作（5）WEBデザインモデルの試作・案の決定 第14回：講評と検討			
授業外学修： サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。			
テキスト： プリント等はその都度配付する。演習ファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること			
参考書・参考資料等： 特になし			
学生に対する評価： 課題レポート40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%			
その他： 特になし			

授業科目名： デジタルデザイン演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：宮本真帆
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>実空間における高度なメディア表現について実制作を通して習得する。PC、スマートフォン等の一体化した装置に縛られる事なく、様々な素材を利用した独自のインタラクティブな造形物の制作を実践する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>実空間におけるデジタルデザインの制作を行う。現在のデジタルデバイスの中心はPC、スマートフォンだが、これは表示装置である液晶モニターとタッチパネルやマウスなどの入力装置を予めセットアップした製品でしかない。実際には各々を別個に選択し組み合わせることが可能であり、この場合、実空間とデジタル表現を高度に融合する事ができ、更に幅広い造形作品の制作が可能になる。多くのマテリアルを扱える造形学専攻の特徴を活かして繊維・陶器・金属・絵画などとの結合も行なえる。この授業ではこうした制作に必要な技術の基礎を学び、実際に作品を作ることで、デジタルメディアを核とし他分野とも横断した表現力豊かな造形デザイン能力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概説</p> <p>第2回：実空間におけるインタラクティブ表現の考察（複数分野の検討比較）</p> <p>第3回：表示装置 事例研究（1）モニター、プロジェクタ</p> <p>第4回：表示装置 事例研究（2）他の様々な技術</p> <p>第5回：入力装置 事例研究（1）タッチパネル</p> <p>第6回：入力装置 事例研究（2）他の様々な技術</p> <p>第7回：基礎演習（1-1）タッチパネルとモニターを使用した表現（技術習得）</p> <p>第8回：基礎演習（1-2）タッチパネルとモニターを使用した表現（実践制作）</p> <p>第9回：基礎演習（2-1）タッチパネルとプロジェクタを使用した表現（技術習得）</p> <p>第10回：基礎演習（2-2）タッチパネルとプロジェクタを使用した表現（実践制作）</p> <p>第11回：基礎演習（3-1）センサとプロジェクタを使用した表現（技術習得）</p> <p>第12回：基礎演習（3-2）センサとプロジェクタを使用した表現（実践制作）</p> <p>第13回：基礎演習（3-1）センサとLEDを使用した表現（技術習得）</p> <p>第14回：基礎演習（3-2）センサとLEDを使用した表現（実践制作）</p> <p>第15回：表示装置・入力装置・デザインの関係に注目した事例の研究</p> <p>第16回：作品制作 立案（1）テーマと展開案</p> <p>第17回：作品制作 立案（2）参考事例の調査と評価</p> <p>第18回：作品制作 立案（3）企画調整・工程計画</p> <p>第19回：作品制作 試作（1）外観制作</p> <p>第20回：作品制作 試作（2）オーサリング</p> <p>第21回：作品制作 試作（2）センサー接続</p> <p>第22回：作品制作 試作（3）評価・計画調整</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

第23回：作品制作 本制作（1）外観制作
第24回：作品制作 本制作（2）オーサリング
第25回：作品制作 本制作（3）センサー接続
第26回：作品制作 本制作（4）センサー調整
第27回：作品制作 本制作（4）全体調整
第28回：講評とディスカッション

授業外学修：

サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。

テキスト：

プリント等はその都度配付する。演習ファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること

参考書・参考資料等：

特になし

学生に対する評価：

課題レポート40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%

その他：

特になし

授業科目名： 映像メディアアート特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：兼古昭彦
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像表現の歴史的な背景を説明できる。 ・メディアアートにおける、映像表現の役割を説明できる。 ・映像メディアアートの今後について、自らの視点を持って俯瞰できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>メディア表現の重要な領域である映像表現の幅広い知識を身につける。現代の映像表現の広がりを見ながら、映像表現の形式や様式を分析し解説を行う。多種多様な表現を考察しながら、写真表現や動画表現が表す空間と時間への考えを深める。授業では、多くの参考映像作品を観ることで映像表現への理解を促し、また学外の施設・展示などへの見学も行いレポート課題に取り組むなど、映像表現を幅広く研究・制作する能力を養成する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：映像表現の形式／様式について</p> <p>第2回：写真という映像表現について</p> <p>第3回：動画という映像表現について</p> <p>第4回：アニメーションという映像表現について</p> <p>第5回：造形作品の素材としての映像</p> <p>第6回：メディアアートについて</p> <p>第7回：舞台表現の映像について</p> <p>第8回：中間レポート作成</p> <p>第9回：レポートの評価・講評</p> <p>第10回：ビデオアートについて</p> <p>第11回：美術作家の映像表現への関わり</p> <p>第12回：メディアアートとネットワークの関係について</p> <p>第13回：2回目レポート作成</p> <p>第14回：レポートの評価・講評</p>			
<p>授業外学修：2時間</p> <p>事前事後学修として、指定する映像作品を視聴し、レポートを提出する。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>必要に応じて指示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>必要に応じて指示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>レポート50%、授業態度50%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名： 映像メディアアート演習I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：兼古昭彦
授業の到達目標及びテーマ ・様々な研究領域に対応した、映像表現の基本的な技能を身につけ、作品を制作・表現することができる。			
授業の概要 様々な研究領域にとって必須なメディアとなってきた映像表現への柔軟な発想と技能を身につけることで、各自の研究テーマの幅を広げる。また造形表現のためのメディアとして映像を再考察し、表現の素材として利用することを学ぶ。演習課題としては、参考作品の分析と撮影の模倣から始め、各自の研究テーマに準じ撮影した動画像の研究の作品発表、検討・評価を行う。			
授業計画 第1回：多様化された映像表現とその制作方法について 第2回：制作準備演習：造形表現のためのメディアとしての映像表現(写真) 第3回：制作演習1(写真)：素材撮影と編集／加工(硬質物) 第4回：制作演習2(写真)：素材撮影と編集／加工(軟質物) 第5回：制作演習3(写真)：素材撮影と編集／加工(液体物) 第6回：作品制作：制作プラン 第7回：作品制作：素材撮影 第8回：作品制作：編集／出力 第9回：作品の講評と検討 第10回：制作演習4:素材撮影と編集／加工(硬質物) 第11回：制作演習5:素材撮影と編集／加工(軟質物) 第12回：作品制作：制作プラン、コンテ制作 第13回：作品制作：素材撮影／編集／出力 第14回：作品の講評と検討			
授業外学修：2時間 事前事後学修として、指定する映像作品を視聴し、レポートを提出する。			
テキスト： 必要に応じて指示する。			
参考書・参考資料等： 必要に応じて指示する。			
学生に対する評価： 演習課題作品80%, 授業態度20%			
その他：			

授業科目名： 映像メディアアート演習II	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：兼古昭彦
授業の到達目標及びテーマ 様々な研究領域に対応した、映像表現の実践的な知識と技能を身につけ、作品を制作・表現することができる。			
授業の概要 各自の研究テーマに必要なメディア表現の考察を行い、研究テーマを空間と時間から捉え直していく。演習課題としては、各自が研究・考察し決定したテーマに基づき、さまざまな撮影状況を設定し研究素材を撮影しながら、編集加工する制作演習を行い、演習課題での作品の発表・検討、評価する。			
授業計画 第1回：映像メディア表現について 第2回：制作準備演習：映像メディア表現の空間性 第3回：制作準備演習：映像メディア表現の時間性 第4回：制作演習1:写真素材撮影 第5回：制作演習1:写真素材編集 第6回：制作演習1:写真素材加工 第7回：制作演習2:動画像素材撮影 第8回：制作演習2:動画像素材編集 第9回：制作演習2:動画像素材加工 第10回：制作演習3:プロジェクションマッピング制作 第11回：制作演習3:対象物制作 第12回：制作演習3:動画像素材編集・加工 第13回：制作演習3:プロジェクション調整 第14回：制作演習3:プロジェクション展示、発表講評 第15回：制作演習4:音響効果についての考察 第16回：制作演習4:録音 第17回：作品制作1:編集/MA 第18回：講評と検討 第19回：映像メディアアート制作における制作プランについて 第20回：作品制作:制作プラン 第21回：作品制作：素材準備 第22回：作品制作：素材加工 第23回：作品制作:動画像素材編集 第24回：作品制作:動画像素材加工 第25回：作品制作：音声素材編集 第26回：作品制作：MA 第27回：作品制作:編集／出力 第28回：作品講評			

R3 シラバス 造形学専攻

授業外学修：2時間

事前事後学修として、指定する映像作品を視聴し、レポートを提出する。

テキスト：

必要に応じて指示する。

参考書・参考資料等：

必要に応じて指示する。

学生に対する評価：

演習課題作品80%, 授業態度20%

その他：

R3 シラバス 造形学専攻

授業科目名： 育ちのための表現特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：岡田 京子
授業の到達目標及びテーマ 造形, 図画工作, 美術教育の体系を理解し, 学校の内外を問わず, 乳幼児から18歳までの幅広い育ちの場において, 人の育ちをサポートできるようになる,			
授業の概要 子供の発達の段階を踏まえ, 造形, 図画工作, 美術教育の目標, 性格, 歴史, 領域や内容を学び, 専門的な知識を習得する。 さらに, 指導, 学習環境, ICTの活用の在り方などを学び, 実践につながるようにする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション(講義概要, 進め方, 評価等) 第2回：子供の発達の段階 第3回：造形, 図画工作, 美術教育の目的と性格 第4回：日本の造形, 図画工作, 美術教育の理論と歴史①戦前の教育 第5回：日本の造形, 図画工作, 美術教育の理論と歴史②戦後の教育 第6回：外国の造形, 美術教育の理論と歴史①フレーベル, チゼック 第7回：外国の造形, 美術教育の理論と歴史②ハーバート・リード 第8回：造形表現の発達と類型 第9回：造形, 図画工作, 美術教育の領域と内容①造形遊び 第10回：造形, 図画工作, 美術教育の領域と内容②絵や立体, 工作 第11回：指導者の在り方 第12回：学習環境の在り方 第13回：ICT活用の在り方 第14回：まとめ			
授業外学修： 各回の授業内容に応じて, 資料収集・研究などの予習, 復習をする。1時間程度。毎授業後にはレポートを提出すること。			
テキスト： 適宜配布する。			
参考書・参考資料等： 適宜指示する。			
学生に対する評価： 予習, 復習20%, 平常点20%, レポート40%			
その他：			

授業科目名： 育ちのための表現演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：岡田 京子
授業の到達目標及びテーマ 乳幼児，小学生，中学生，高校生の造形表現の理解を基に，授業やワークショップなどの計画を立て，実践し，振り返ることで，育ちのための表現の在り方について考え，理解することができる。			
授業の概要 乳幼児，小学生，中学生，高校生の造形表現を発達の段階に沿って，実践していく。大枠を理解したのちに，簡単な実践を計画し，実践する。そして振り返りをしまとめ，造形，図画工作，美術教育全体を踏まえた，育ちのための表現の在り方について考える。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：乳幼児に対する造形表現の理解 第3回：乳幼児に対する造形表現の計画 第4回：乳幼児に対する造形表現の実践 第5回：乳幼児に対する造形表現の振り返り，まとめ 第6回：小学生に対する造形表現の理解 第7回：小学生に対する造形表現の計画 第8回：小学生に対する造形表現の振り返り 第9回：小学生に対する造形表現のまとめ 第10回：中学生，高校生に対する造形表現の理解，計画 第12回：中学生，高校生に対する造形表現の実践 第13回：中学生，高校生に対する造形表現の振り返り，まとめ 第14回：全体の振り返り			
授業外学修： 各回の授業内容に応じて，資料収集・研究などの予習，復習をする。1時間程度。			
テキスト： 適宜配布する。			
参考書・参考資料等： 適宜指示する。			
学生に対する評価： 予習，復習20%，平常点40%，課題に対するレポートなどの提出40%			
その他：			

授業科目名： 育ちのための表現演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：岡田 京子
授業の到達目標及びテーマ 乳幼児から18歳までの幅広い育ちの場における、造形、図画工作、美術教育の指導論、制作論を展開することができる。研究課題に関する知見を深めることができる。			
授業の概要 乳幼児、小学生、中学生、高校生の造形表現の中から、自分の研究の方向性に沿って、年齢層を絞り対象を決める。文献調査、ワークショップや授業について、子供の作品や活動の捉え方などの研究を踏まえ、ワークショップ及び授業を計画し実施する。それらを通して、造形、図画工作、美術教育全体を踏まえた、育ちのための表現の在り方について、さらに理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：研究の目的 第3回：研究計画 第4回：文献調査①その年代の発達の段階について 第5回：文献調査②その年代の造形的な発達の段階について 第6回：文献調査③心理学の視点から 第7回：文献調査④まとめ 第8回：ワークショップの研究①ねらい 第9回：ワークショップの研究②対象、流れ、環境設定 第10回：授業の研究①ねらい 第11回：授業の研究②流れ、学習環境設定 第12回：子供の活動の捉え方の研究（ビデオ分析）①子供の様子から 第13回：子供の活動の捉え方の研究（ビデオ分析）②教師との関わりから 第14回：子供の活動の捉え方の研究（ビデオ分析）③友達との関わりから 第15回：子供の作品の捉え方の研究①発想や構想を視点に 第16回：子供の作品の捉え方の研究②技能を視点に 第17回：子供の作品の捉え方の研究③（海外の子供の作品） 第18回：実践研究—ワークショップ及び授業の実践①（ねらい、対象などの計画） 第19回：実践研究—ワークショップ及び授業の実践②（流れ、環境設定などの計画） 第20回：実践研究—ワークショップ及び授業の実践③（実践）（20、21、22回は同日に実施） 第21回：実践研究—ワークショップ及び授業の実践④（実践） 第21回：実践研究—ワークショップ及び授業の実践⑤（実践） 第23回：実践研究の振り返り、まとめ 第24回：研究全体の振り返り、まとめ			
授業外学修： 各回の授業内容に応じて、資料収集・研究などの予習、復習をする。1時間程度。			
テキスト：			

R3 シラバス 造形学専攻

適宜配布する。

参考書・参考資料等：

適宜指示する。

学生に対する評価：

予習，復習 20%，平常点 40%，課題に対するレポートなどの提出 40%

その他：

授業科目名：美術史特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：曾根博美
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>仏教絵画を各時代の動向・背景を踏まえた上で、造形上の特徴を分析、研究を実施することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本美術史の精神的支柱である仏教美術のうち、仏教絵画の主要な作品についてより詳細な解説と分析を行い、専門的知識を深める。授業では実際に対象となる作品を選び、テーマの設定から実地調査まで、研究に必要なアプローチを学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：日本美術史と仏教絵画の概観</p> <p>第2回：飛鳥・奈良時代 法隆寺と天平仏画</p> <p>第3回：平安時代前期 曼荼羅</p> <p>第4回：平安時代後期（1） 浄土教絵画</p> <p>第5回：平安時代後期（2） 密教絵画</p> <p>第6回：平安時代後期（3） 垂迹画・社寺縁起・経絵</p> <p>第7回：中間指導 まとめとディスカッション</p> <p>第8回：鎌倉時代（1） 阿弥陀図・来迎図</p> <p>第9回：鎌倉時代（2） 地獄草紙</p> <p>第10回：鎌倉時代（3） 六道絵</p> <p>第11回：鎌倉時代（4） 密教絵・説話図・高僧伝絵</p> <p>第12回：室町時代以降の仏教絵画の展開</p> <p>第13回：課題発表</p> <p>第14回：まとめと解説</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>予習：提示された用語集などの関連資料を読んでくること（1時間程度）</p> <p>復習：授業中提示された図版について確認と整理をすること（1時間程度）</p>			
<p>テキスト：必要に応じて提示</p>			
<p>参考書・参考資料等：必要に応じ適宜配布</p>			
<p>学生に対する評価：平常点 20%</p> <p style="padding-left: 40px;">レポート 40%</p> <p style="padding-left: 40px;">課題 40%</p>			
<p>その他：manabaを用い、図版や文献などの共有を図り、学習状況へのフィードバックを行う</p>			

授業科目名：美術史演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：曾根 博美
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>現代における拡大された美術表現を美術史の文脈上からとらえることができる。</p> <p>現代の美術に関する自分の視点を持つことができる。</p> <p>20世紀以降の美術の動向を表現様式とテーマから論じることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>20世紀特に1960年代以降の国内外の美術を表現様式、主題、ムーブメント等からとらえ、関心のあるテーマについて口頭及び記述による発表と議論を通し、それらが表象する時代精神にアプローチする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：20世紀以降の美術の概観</p> <p>第2回：表現様式と主題</p> <p>第3回：ムーブメントとグループ</p> <p>第4回：地域性、時代性、環境との関わり</p> <p>第5回：美術批評の視点</p> <p>第6回：ヨーロッパにおける美術と批評概観</p> <p>第7回：アメリカにおける美術と批評概観</p> <p>第7回：日本における美術と批評概観</p> <p>第8回：発表とディスカッション (1)</p> <p>第9回：批評とリサーチ 文献調査</p> <p>第10回：批評とリサーチ インタビュー</p> <p>第11回：批評とリサーチ フィールドワーク</p> <p>第12回：批評とリサーチ まとめ</p> <p>第13回：発表とディスカッション (3)</p> <p>第14回：講評</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>授業前課題（テキストを読む等） 2時間</p> <p>授業後学修（発表の準備と振り返り等）2時間</p>			
<p>テキスト：</p> <p>必要に応じ適宜配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>必要に応じ適宜配布する</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>発表 50% 記述課題 50%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名： 美術史演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：曾根 博美
授業の到達目標及びテーマ 現代の美術に関する批評的な視点を持つことができる。 作品、プロジェクトについて、自分のテーマに基づいた批評ができる。			
授業の概要 1990年代以降の国内外の美術に関する批評講読を進める。その後、各自関心のあるテーマに基づいて作品、またはプロジェクトを選び、批評的に論じる。			
授業計画 第1回：美術史とテーマ 第2回：作品批評の視点 第3回：批評を読む（1）1990年代以前の批評 第4回：批評を読む（2）1990年代の批評 第5回：批評を読む（3）2000年代前半の批評 第6回：批評を読む（4）2000年代後半の批評 第7回：批評を読む（5）2010年代の批評 第8回：批評を読む（3）SNS時代の批評 第9回：フィールドワーク 作品 第10回：フィールドワーク プロジェクト 第11回：作品批評（1）批評の主題 第12回：作品批評（2）問題提起 第13回：作品批評（3）批評言語 第14回：講評			
授業外学修： 授業前課題（テキストを読む等） 2時間 授業後学修（発表の準備と振り返り等）2時間			
テキスト： 必要に応じ適宜配布する			
参考書・参考資料等： 必要に応じ適宜配布する			
学生に対する評価： 発表 50% 記述課題 50%			
その他：			

授業科目名：陶芸特論	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：高田三平
<p>授業の到達目標及びテーマ 日本の陶芸の成り立ちを、歴史的・地理的・民族的観点から考察することができるようになる。</p>			
<p>授業の概要 日本は古代より大陸から流入した文化を取り入れアレンジして、独自の文化を形成してきた。陶芸もその影響を顕著に受けて変遷を続けている。古代から現代迄の陶芸のあり方や特徴を、各時代の 社会的背景と関係づけながら比較し自己の制作に応用していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：縄文・弥生・古墳時代の陶</p> <p>第3回：須恵器・朝鮮半島からの伝来</p> <p>第4回：鎌倉・室町時代の地方の窯</p> <p>第5回：桃山時代のやきもの・秀吉と利休</p> <p>第6回：江戸時代のやきもの・磁器のはじまり</p> <p>第7回：明治時代・やきもの技術の近代化</p> <p>第8回：現代のやきもの・多様性</p> <p>第9回：西洋I古代の陶</p> <p>第10回：西洋II中世のやきもの</p> <p>第11回：西洋III 現代に至るやきもの</p> <p>第12回：日本と海外の現代陶芸作家の作品鑑賞</p> <p>第13回：各自の注目する作家・作品とその表現について発表とディスカッション</p> <p>第14回：各自の視点で考える今後の「陶」の表現の可能性についてレポートにまとめる</p>			
<p>授業外学修：美術館、画廊の展示を観てレポートを提出する。</p>			
<p>テキスト：なし</p>			
<p>参考書・参考資料等：適宜提示</p>			
<p>学生に対する評価：平常点80% レポート20%</p>			
<p>その他：なし</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

授業科目名：陶芸演習 I	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：高田三平
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>陶芸の粘土の特性や伝統的技法を知り、陶 形の可能性を探る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>陶芸の基礎を学習する。</p> <p>伝統的成形技法・釉薬・焼成技術を学び、陶芸による 形表現の基をつくる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回:ガイダンス</p> <p>第2回:陶芸粘土の成り立ち(特殊性)</p> <p>第3回:成形の実践1 手びねり</p> <p>第4回:成形の実践2 手びねりの仕上げ</p> <p>第5回:成形の実践3 タタラ作り</p> <p>第6回:成形の実践4 電動ロクロで作るI</p> <p>第7回:成形の実践5 電動ロクロで作るII</p> <p>第8回:成形の実践6 電動ロクロで削る</p> <p>第9回:各自制作テーマを決定 伝統の釉薬とその組成</p> <p>第10回:制作1 陶芸の窯と焼成</p> <p>第11回:制作2 装飾技法I 練り込み・象嵌</p> <p>第12回:制作3 装飾技法II 白化粧・色化粧</p> <p>第13回:焼成 酸化焼成と還元焼成</p> <p>第14回:作品発表</p>			
<p>授業外学修:美術館、画廊の展示を観てレポートを提出する。</p>			
<p>テキスト：なし</p>			
<p>参考書・参考資料等：適宜提示</p>			
<p>学生に対する評価：平常点30% レポート30% 作品40%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：陶芸演習II	単位数：4単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：高田三平
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>自身の表現のテーマとして、電動ロクロと装飾技法を応用し作品を完成させる。 完成後は作品を発表し、作品と制作について議論する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>陶芸の多様な技法の中から電動ロクロを導入し、関心のある装飾技法を選択し制作する。 はじめに、選択した技法の代表的作品を模刻する。 その後、完成した模刻作品を基に試行し、自己の作品を完成させ発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：制作1 電動ロクロで小鉢を作る</p> <p>第3回：制作2 電動ロクロで小鉢を削る</p> <p>第4回：制作3 電動ロクロで中鉢を作る</p> <p>第5回：制作4 電動ロクロで中鉢を削る</p> <p>第6回：制作5 電動ロクロで皿を作る</p> <p>第7回：制作6 電動ロクロで大皿を作る</p> <p>第8回：制作7 電動ロクロで皿、大皿を削る</p> <p>第9回：制作8 電動ロクロで壺を作る</p> <p>第10回：制作9 電動ロクロで壺を削る</p> <p>第11回：焼成(素焼き800° C)</p> <p>第12回：施釉</p> <p>第13回：施釉と窯づめ</p> <p>第14回：焼成(本焼き1250° C)</p> <p>第15回：中間発表とディスカッション(後期自由制作のプランを考える)</p> <p>第16回：自由制作のプラン発表・ディスカッションにて制作作品を決定</p> <p>第17回：制作1 プランに基づく作り方の研究</p> <p>第18回：制作2 かたちを構築1</p> <p>第19回：制作3 かたちを構築2</p> <p>第20回：制作4 装飾技法の研究</p> <p>第21回：制作5 装飾技法の導入</p> <p>第22回：制作6 装飾技法の展開</p> <p>第23回：制作7 問題点の追求</p> <p>第24回：制作8 問題点の修正</p> <p>第25回：焼成(素焼き800° C)</p> <p>第26回：施釉と窯づめ</p> <p>第27回：焼成(本焼き1250° C)</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

第28回：作品発表とディスカッション・講評

授業外学習：美術館、画廊の展示を観てレポートを提出する。

テキスト：なし

参考書・参考資料等：適宜提示

学生に対する評価：平常点30% レポート30% 作品40%

その他：なし

R3 シラバス 造形学専攻

授業科目名： 金工・ジュエリー特論	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：押元信幸
授業の到達目標及びテーマ 金工のながれを時代ごとに辿り、その造形美を生み出す技術と理念の知識を修得する。さらに、ここで培った知識を学生それぞれの専門分野へ関係づける。			
授業の概要 授業計画に示すように、人類と金属の出会いから、時系列にそって授業を進めることで、金工・ジュエリーについての専門的な知識を修得していく。前半は、金工品や装身具の歴史をたどりながら、金工・ジュエリーの発展と特徴を理解し、その文化的な意味を特定する。後半は工芸造形表現の基本概念を様々な視点から文献、作品、作者を通覧し比較検討する。			
授業計画 第1回：金工・ジュエリーを学ぶために 序 第2回：金工のながれ (原始) 第3回：金工のながれ (古代) 第4回：金工のながれ (中世) 第5回：金工のながれ (近世) 第6回：日本の金工のながれ (近代) 第7回：日本の金工のながれ (現代) 第8回：日本の金工のながれ (同時代) 第9回：工芸造形表現の基本概念 (産業・地域) 第10回：工芸造形表現の基本概念 (文化・様式・装飾) 第11回：工芸造形表現の基本概念 (デザイン・機能・素材) 第12回：工芸造形表現の基本概念 (ものづくり・教育) 第13回：工芸造形表現の基本概念 (オブジェ・アート) 第14回：まとめと解説 (創作活動における金工の意味)			
授業外学修：予習1時間、復習・ノート整理1時間 時代考証のための世界史、日本史、工芸史の予習。または次の授業までに出された課題について。			
テキスト：適宜配布する。			
参考書・参考資料等：適宜指示する。			
学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答えなどの平常点40点。課題に対するレポート提出40点。			
その他：			

授業科目名： 金工・ジュエリー演習 I	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：押元信幸
授業の到達目標及びテーマ 造形分野における独創性のある制作論を構築する。学生の研究課題に関連できるように、金属造形の技法や技能を応用する。			
授業の概要 それぞれの研究課題について、被服造形に係わるジュエリーまたは広義の金属造形表現を関連づけできるように、制作計画を立て、独自の発想に基づく作品を制作していく。そのためには、制作に至る導入と経緯について、的確に整理し議論しなければならない。作品制作中に、素材・技法や表現方法について具体的にアドバイスすることで、自己表現としての作品制作に必要な実践力、技能を身につけていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（概要説明、進め方など） 第2回：「鍛金」「彫金」「鋳金」課題説明・デザイン計画 第3回：制作1-1/試作・原型制作 第4回：制作1-2/テクスチャー・金鍍とたがねの表現 第5回：制作1-3/接合・組み立て・鋳造 第6回：制作1-4/研磨 第7回：制作1-5/仕上げ 第8回：「3D CAD ジュエリー」課題説明・デザイン計画 第9回：制作2-1/CAD JD 演習1 複合的造形展開と出力用ファイルの作成 第10回：制作2-2/CAD JD 演習2 切削機（CNC）の原理と出力準備 第11回：制作2-3/CAD JD 演習3 制作と出力（切削） 第12回：制作2-4/七宝による表現/脱鑽 第13回：制作2-5/焼成/鋳込み 第14回：制作2-6/制作・着色仕上げ			
授業外学修：予習0.5時間、復習・ノート整理0.5時間 授業中にできなかった課題について補完する。または次の授業までに出された課題について予習する。			
テキスト：適宜配布する。			
参考書・参考資料等：適宜指示する。			
学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答えなどの平常点40点。課題に対する作品提出40点。			
その他：課題ごとに適時、中間チェック講評を行う。 CAD JD演習はゲストスピーカーを予定している。			

授業科目名： 金工・ジュエリー演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：押元信幸
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>造形分野における独創性のある制作論を展開する。研究の各段階において、学生の自主性を重んじ、研究課題に関連する金工・ジュエリー分野の領域全般について、専門知識を深めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学生の研究課題について、目的、制作計画、学術的背景、方法論、調査領域などに関するアドバイスと議論を行う。また、学生の制作研究について、素材・技法や表現方法の実技指導、企画・発表・コミュニケーションなどの能力を修得し、実社会において専門技術者、教育者として自立できるよう動機づける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：金工・ジュエリーを制作するために 序</p> <p>第2回：研究目的・研究計画1/学術的背景と方法論</p> <p>第3回：研究目的・研究計画2/調査領域</p> <p>第4回：調査計画1/分析と評価</p> <p>第5回：調査計画2/具体案の作成</p> <p>第6回：調査1/撮影機器の取り扱い</p> <p>第7回：調査1/スケッチと撮影記録</p> <p>第8回：調査結果の分析と評価1/ケーススタディ</p> <p>第9回：調査結果の分析と評価2/作図</p> <p>第10回：研究成果内容1/実験</p> <p>第11回：研究成果内容2/考察</p> <p>第12回：研究報告内容3/骨子</p> <p>第13回：研究報告内容4/細部</p> <p>第14回：研究報告の発表</p> <p>第15回：制作1-1/金属素材の観察</p> <p>第16回：制作1-2/アイデアスケッチと試作</p> <p>第17回：制作1-3/金属素材の加工方法</p> <p>第18回：制作1-4/金属素材の表相と形態</p> <p>第19回：制作1-5/金属素材の色と仕上げ</p> <p>第20回：制作2-1/工芸素材の観察</p> <p>第21回：制作2-2/装身具またはオブジェのアイデアスケッチと試作</p> <p>第22回：制作2-3/装身具またはオブジェの加工方法</p> <p>第23回：制作2-4/装身具またはオブジェの表相と形態</p> <p>第24回：制作2-5/装身具またはオブジェの色と仕上げ</p> <p>第25回：制作3-1/工芸素材からのアイデアスケッチと試作</p> <p>第26回：制作3-2/工芸素材の加工方法</p> <p>第27回：制作3-3/工芸素材の表相と形態</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

第28回：制作 3-4 / 工芸素材の色と仕上げ

授業外学修：予習0.5時間、復習・ノート整理0.5時間

授業中にできなかった課題について補完する。または次の授業までに出された課題について予習する。

テキスト：適宜配布する。

参考書・参考資料等：適宜指示する。

学生に対する評価：予習・復習の有無20点。諮問に対する受け答えなどの平常点40点。課題に対する研究報告及び作品提出40点。

その他：課題ごとに適時、中間チェック講評を行う。

授業科目名：染色造形特論	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：早瀬郁恵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>伝統的な染色からテキスタイルアートまで、様々な表現技法を多角的に学び、素材や染色法についての知識を深めることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生活空間の中で「テキスタイル」は様々な工芸素材の領域のうちで最も触れる機会の多い身近な素材のひとつにあげられ、衣服やインテリア=ファブリックなど生産を前提としたものから一品制作としてのアート作品まで幅広く存在している。この教科では、生活の中で「テキスタイル」の持つ役割や必要性を歴史的に考察し論説する。さらにディスカッションにより表現手段として布や繊維とどのように取り組んだらよいかを、様々な技法や加工法の実例を通して理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価、等）</p> <p>第2回：生活の中のテキスタイル</p> <p>第3回：染色作家の作品と造形表現</p> <p>第4回：創作の発想と展開</p> <p>第5回：テキスタイル素材および色材について</p> <p>第6回：防染技法（1）各種技法</p> <p>第7回：防染技法（2）材料の特性と染料の関係</p> <p>第8回：防染技法（3）様々な素材と表現効果</p> <p>第9回：捺染技法（1）各種技法</p> <p>第10回：捺染技法（2）材料の特性と染料の関係</p> <p>第11回：捺染技法（3）様々な素材と表現効果</p> <p>第12回：テキスタイル加工法と表現（1）立体加工</p> <p>第13回：テキスタイル加工法と表現（2）特殊加工</p> <p>第14回：まとめ、発表</p>			
<p>授業外学修：予習、復習 各1時間</p> <p>予習：各種の表現技法や作家等について資料収集する。</p> <p>復習：授業内容をノートに整理する。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリント配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度提示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>予習・復習の有無20%、課題発表40%、レポート40%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：染色造形演習 I	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：早瀬郁恵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>素材と表現の関係や多様な技法の特徴を理解し、制作演習のなかで自身のアイデアを効果的に展開できる想像力、表現力、応用力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>染色造形において、発想を具現化する要因として素材や技法の占める割合は極めて大きく、それらによっては表現形態が大きく変わってくる。この教科では、蠟や糊、絞りによる防染やスクリーン捺染、ブロックプリント等の染色技法とそれに基づく表現方法について、論説と演習を通してより深く理解する。さらに各種素材の特性を生かした表現効果についても制作演習により検討、批評を行なう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価、等）</p> <p>第2回：防染技法（絞り又は板締）の理論と実践</p> <p>第3回：防染技法（絞り又は板締）の実践 素材と表現効果</p> <p>第4回：防染技法（絞り又は板締）の応用 素材と表現効果</p> <p>第5回：防染技法（蠟又は糊）の理論と実践</p> <p>第6回：防染技法（蠟又は糊）の実践 素材と表現効果</p> <p>第7回：防染技法（蠟又は糊）の応用 素材と表現効果</p> <p>第8回：中間まとめ、発表</p> <p>第9回：捺染技法の理論と実践 素材と表現効果</p> <p>第10回：捺染技法の理論と実践 パターンデザインの発想と展開</p> <p>第11回：捺染技法の理論と実践 製版について</p> <p>第12回：捺染技法の実践 染料又は顔料によるプリント</p> <p>第13回：捺染技法の応用 着防、着抜によるプリント</p> <p>第14回：まとめ、発表</p>			
<p>授業外学修：予習、復習については授業時間の半分の時間を目安にする。</p> <p>予習：課題に応じて資料収集し、デザインを考える。</p> <p>復習：試作の工程やテクスチャーについて記録し、整理する。</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリント配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>その都度提示する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>予習・復習の有無20%、課題発表50%、レポート30%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：染色造形演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：早瀬郁恵
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>素材、技法、表現方法の融合を図り、柔軟な発想で独創的な作品が制作できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各自の研究するテーマの充実を図るためには、幅広い視野とより高度な表現力が要求される。この教科では、染色造形演習Ⅰで学んだ染色技法だけでなく、テキスタイル加工と他のカテゴリーの表現技法や異素材との組み合わせを論説と制作演習により模索する。表現の幅を広げ、新しい視点から捉えた染色作品（平面から立体作品まで）の展開を試み検討、批評を行なう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価、等）</p> <p>第2回：現代のテキスタイルアートについて（1）作家と作品</p> <p>第3回：現代のテキスタイルアートについて（2）素材と技法</p> <p>第4回：テキスタイル加工の理論と実践</p> <p>第5回：テキスタイル加工の実践</p> <p>第6回：テキスタイル加工の応用</p> <p>第7回：作品制作演習① 各種染色技法とテキスタイル加工による表現</p> <p>第8回：作品制作演習① 資料収集、アイデアスケッチによるイメージ表現</p> <p>第9回：作品制作演習① デザインチェック</p> <p>第10回：作品制作演習① 素材と表現技法</p> <p>第11回：作品制作演習① 制作工程の検討</p> <p>第12回：作品制作演習① 制作（染色）</p> <p>第13回：作品制作演習① 制作（加工）</p> <p>第14回：中間まとめ、発表</p> <p>第15回：複合的表現について（1）素材と技法</p> <p>第16回：複合的表現について（2）構成</p> <p>第17回：複合的表現の実践（1）ステッチワーク（フリー、マシン）</p> <p>第18回：複合的表現の実践（2）異素材とコラージュ</p> <p>第19回：複合的表現の応用（1）染色技法とステッチワーク</p> <p>第20回：複合的表現の応用（2）テキスタイル加工とステッチワーク</p> <p>第21回：作品制作演習（平面又は立体）② 資料収集、アイデアスケッチによるイメージ表現</p> <p>第22回：作品制作演習（平面又は立体）② デザインチェック</p> <p>第23回：作品制作演習（平面又は立体）② 素材と表現技法, 制作工程の検討</p> <p>第24回：作品制作演習（平面又は立体）② 制作工程の検討</p> <p>第25回：作品制作演習（平面又は立体）② 制作（染色）</p> <p>第26回：作品制作演習（平面又は立体）② 制作（加工）</p> <p>第27回：作品制作演習（平面又は立体）② 制作（構成）</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

第28回：まとめ、発表

授業外学修：予習、復習については授業時間の半分の時間を目安とする。

予習：課題に応じて資料収集し、デザインを考える。

復習：試作の工程やテクスチャーについて記録し、整理する。

テキスト：

プリント配布する。

参考書・参考資料等：

その都度提示する。

学生に対する評価：

予習・復習の有無20%、課題発表50%、レポート30%

その他：

R3 シラバス 造形学専攻

授業科目名：織物特論	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：大木敦子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>織物をはじめ繊維の歴史に焦点をあて、国内外の文化的背景を理解し、現代における織物とアートとの関わりまたその役割を理解することが出来る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>織物の歴史は人間の文化的生活の歴史であり、その技術の発展は時に人類の歴史の転換点に大きく関わってきた。「衣」「食」「住」のすべてに関わる織物の役割とその変遷、世界各地の織物の技術や道具を含め歴史的背景を比較し考察する。</p> <p>またアートとしてどのように造形要素が確立されてきたのかを考察し、今後のテキスタイルアートの可能性を議論する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（概要説明、進め方等）</p> <p>第2回：織物の起源</p> <p>第3回：西洋の織物の歴史</p> <p>第4回：東洋の織物の歴史</p> <p>第5回：美術と織物</p> <p>第6回：西洋と東洋を結ぶ織物</p> <p>第7回：素材の歴史</p> <p>第8回：世界各地の織り機</p> <p>第9回：日本の伝統織物</p> <p>第10回：近・現代の織物</p> <p>第11回：織物と様々な分野の関わり</p> <p>第12回：ファイバーアートの世界</p> <p>第13回：まとめ</p> <p>第14回：研究発表</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>各回の授業テーマについて資料を収集する。2時間程度</p>			
<p>テキスト：</p> <p>適時指示する</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>適時指示する</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>レポート40%、研究発表40%、授業への取組み方20%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：織物演習 I	単位数：2単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：大木敦子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>織物の組織図を理解し、素材との関係性を演習を通して考察する。各組織の特徴を作品制作の中で応用できる力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>織物の基本構造の理解と専門的知識の習得のためには組織図を理解することが必要である。三原組織（平織・綾織・朱子織）をはじめ各組織を読み解くことができ、オリジナルの組織図をおこすことが出来るようになることを目指す。また各組織と素材の関係を考察し、作品制作の中で応用していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（概要説明、進め方など）</p> <p>第2回：組織研究1（組織図について）</p> <p>第3回：組織研究2（三原組織演習）</p> <p>第4回：組織研究3（組織のバリエーション）</p> <p>第5回：素材研究1（組織と素材の関係）</p> <p>第6回：素材研究2（オリジナルの組織と素材）</p> <p>第7回：まとめ、ディスカッション</p> <p>第8回：研究制作1（デザイン）</p> <p>第9回：研究制作2（糸染め）</p> <p>第10回：研究制作3（整経・箆通し・綜統通し）</p> <p>第11回：研究制作4（ビーミング・織り出し）</p> <p>第12回：研究制作5（織、中間チェック）</p> <p>第13回：研究制作6（機おろし、仕上げ）</p> <p>第14回：講評会、レポート提出</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>各回の授業内容に応じて資料収集・技法研究をする。1時間程度</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリントを適時配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>適時指示する</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>作品50%、レポート30%、授業への取り組み方20%</p>			
<p>その他：</p> <p>作業に適した服装（エプロン等）で授業に臨むこと</p>			

授業科目名：織物演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中専(美術))	担当教員名：大木敦子
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>作品制作に必要な素材、技法の研究に主体的に取り組み、完成度の高い作品制作を目指す。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>織物の作品制作においてこれまで習得してきた技法や、素材体験を更に深める。 各々のイメージの具現化に必要な技法や素材を見極めるための実験・試作を重ね、展示方法、演出方法を含め完成度の高い作品を制作する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（概要説明、進め方など）</p> <p>第2回：素材研究1（天然素材）</p> <p>第3回：素材研究2（人工素材、複合素材）</p> <p>第4回：素材研究3（オリジナル素材）</p> <p>第5回：技法研究1（平面表現）</p> <p>第6回：技法研究2（立体表現）</p> <p>第7回：技法研究3（空間表現）</p> <p>第8回：作品演出の方法</p> <p>第9回：イメージの具現化に向けて（資料収集）</p> <p>第10回：試作1（素材比較を中心としたサンプル制作）</p> <p>第11回：試作2（技法比較を中心としたサンプル制作）</p> <p>第12回：まとめ</p> <p>第13回：中間発表、ディスカッション</p> <p>第14回：デザイン（考察）</p> <p>第15回：デザイン（素材・技法の決定）</p> <p>第16回：作品制作1（組織構築、素材計算）</p> <p>第17回：作品制作2（糸染め）</p> <p>第18回：作品制作3（整経・綜統通し）</p> <p>第19回：作品制作4（ビーミング）</p> <p>第20回：作品制作5（織り出し）</p> <p>第21回：作品制作6（織・中間チェック）</p> <p>第22回：作品制作7（織・修正）</p> <p>第23回：作品制作8（織りあげ）</p> <p>第24回：作品制作9（機おろし）</p> <p>第25回：作品制作10（仕上げ）</p> <p>第26回：作品制作11（展示準備）</p> <p>第27回：作品展示・講評会</p> <p>第28回：まとめ、ディスカッション、レポート提出</p>			
<p>授業外学修：各回の授業内容に応じて資料収集・技法研究をする。1時間程度</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

テキスト：

プリントを適時配布する

参考書・参考資料等：

適時指示する

学生に対する評価：

作品50%、レポート30%、授業への取組み方20%

その他：

作業に適した服装（エプロン等）で授業に臨むこと

授業科目名： 絵画特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：山藤 仁
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人はなぜ表現し描くのか、表現とはなにかを原始から続く表現の歴史を参照しながら感じ取り、鑑賞・実験制作を通じて理解と技術操作を深めることができるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ラスコー洞窟壁画、アルタミラ洞窟壁画、ショーヴェ洞窟壁画について講述とディスカッションにより考察を始める。絵画の歴史を参照しながら現在の美術表現まで重要な絵画の諸運動を取り上げる。20世紀初期では、後期印象派、キュビズム、フォービズム、アンフォルメル、シュルレアリスム、バウハウス等を、第2次大戦後では、抽象表現主義、ポップアート、ミニマルアート、ニューペインティング等を取り上げる。これらを鑑賞・分析し、ディスカッションを通じて絵画と社会との関わり近・現代の美術表現における美とは何かを考察する。この学修を基に自身の研究制作活動と関連づける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(講義の概要、進め方、評価 等)</p> <p>第2回：ラスコー洞窟壁画、アルタミラ洞窟壁画、ショーヴェ洞窟壁画について (論説・映像)</p> <p>第3回：後期印象派について(論説・ワークショップ・実験)</p> <p>第4回：キュビズムについて(論説・ワークショップ・実験)</p> <p>第5回：フォービズムについて(論説・ワークショップ・実験)</p> <p>第6回：アンフォルメルについて(論説・ワークショップ・実験)</p> <p>第7回：シュルレアリスムについて(論説・ワークショップ・実験)</p> <p>第8回：バウハウスについて(論説・ワークショップ・実験)</p> <p>第9回：中間まとめ (実験制作まとめ作業)</p> <p>第10回：制作発表 (鑑賞及びディスカッション)</p> <p>第11回：抽象表現主義について(論説・ワークショップ・実験)</p> <p>第12回：ポップアート、ミニマルアートについて(論説・ワークショップ・実験)</p> <p>第13回：ニューペインティングについて(論説・ワークショップ・実験)</p> <p>第14回：まとめ (各自の研究の発表含む)</p>			
<p>授業外学修： (予習90分) 授業前には資料等を調べ疑問点や自分の考え方を構築しておくこと (復習90分) 毎授業後にはレポートを提出すること</p>			
<p>テキスト：その都度提示・配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：その都度提示・配布するが各ムーブメントについて事前に調べておくことが望ましい。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業に取り組む姿勢、積極性等 (40%)、提出作品/プレゼンテーション (60%)。全回の出席が評価の前提である。</p>			
<p>その他：各自の研究内容が土台となる。本授業と各自の研究の関係を深めて行くため、個人に合わせた指導やアドバイスとなる。</p>			

授業科目名： 絵画演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：山藤 仁
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人はなぜ表現し描くのか、表現とはなにかを追求し理解を深める。近代の作家・作品の研究、日本とヨーロッパの絵画表現とその展開について学修し、自身の表現研究内容と関係づける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近・現代の絵画表現では、数々の絵画運動のなかから多様な素材・技法による表現が試みられてきた。この科目では、近代の作家と作品について、制作演習を通じてより具体的に考察を深め、それを各自の表現の応用に発展させることが目的である。具体的な方法として、数名の作家の作品についての模写による構図研究、作家が試みた素材と技法の制作演習により、作家作品をより詳しく分析する。制作過程を追体験することにより作家がどのような意識で制作に望んだかその概念とは何かを理解し技術を修得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(講義の概要、進め方、評価 等)</p> <p>第2回：近・現代の美術表現と作家(ヨーロッパ)についての理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第3回：近・現代の美術表現と作家(日本・アジア)についての理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第4回：日本とヨーロッパの絵画表現の比較(ワークショップ・実験)</p> <p>第5回：作家・作品研究A① 時代背景についての理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第6回：作家・作品研究A② 構図の研究・模写(ワークショップ・実験)</p> <p>第7回：作家・作品研究A③ 素材・技法の研究(ワークショップ・実験)</p> <p>第8回：作家・作品研究A④ 総合的理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第9回：Aについてのまとめ(プレゼンテーション・ディスカッション・実験)</p> <p>第10回：作家・作品研究B① 時代背景についての理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第11回：作家・作品研究B② 構図の研究・模写(ワークショップ・実験)</p> <p>第12回：作家・作品研究B③ 素材・技法の研究(ワークショップ・実験)</p> <p>第13回：作家・作品研究B④ 総合的理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第14回：Bについてのまとめ(鑑賞・プレゼンテーション・ディスカッション)及び総括</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>(予習90分) 授業前には資料等を調べ疑問点や自分の考え方を構築しておくこと</p> <p>(復習90分) 毎授業後にはレポートを提出すること</p>			
<p>テキスト：その都度提示・配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：その都度提示・配布する。</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>授業への参加態度30%・プレゼンテーション等への取り組み30%レポート・小作品等40%</p> <p>全回の出席が評価の前提である。</p>			
<p>その他：</p> <p>各自の研究内容が土台となる。本授業と各自の研究の関係を深めて行くため、個人に合わせた指導やアドバイスとなる。</p>			

授業科目名： 絵画演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：山藤 仁
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>人はなぜ表現し描くのか、表現とは何かを追求し理解を深める。現代の作家・作品の研究、日本（アジア）とヨーロッパ・アメリカの美術表現について理解を深める。また、実験制作を通して自身の制作に応用する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現代の美術は、平面から立体、オブジェ、映像、パフォーマンス、コンセプチュアルアート等、近代美術からさらに多様に多彩な表現が展開されてきている。この科目では、現代の美術と作家・作品とその意味合いについて解説、制作演習を行い平面表現の可能性を追求することが目的である。例としては、抽象表現主義の作家ポロックのドリッピングの技法による平面表現、また、多くの作家により試みられている様々な素材を併用したミクストメディアやインスタレーション（パブリックアート含む）等の近代から現代の美術に発展してきた表現の意味合いを学修しより専門性の高い研究と操作を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション(講義の概要、進め方、評価 等)</p> <p>第2回：現在の自身の研究発表及び各自の研究課題の発見</p> <p>第3回：作家・作品研究A① 時代背景についての理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第4回：作家・作品研究A② コンセプトについての理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第5回：作家・作品研究A③ 素材・技法の研究(ワークショップ・実験)</p> <p>第6回：作家・作品研究A④ 総合的理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第7回：作家・作品研究Aと自身の研究の関係及び今後の制作にそのように影響するかをプレゼンテーションする。</p> <p>第8回：作家・作品研究B① 時代背景についての理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第9回：作家・作品研究B② コンセプトについての理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第10回：作家・作品研究B③ 素材・技法の研究(ワークショップ・実験)</p> <p>第11回：作家・作品研究B④ 総合的理解と実践(ワークショップ・実験)</p> <p>第12回：作家・作品研究Bと自身の研究の関係及び影響をプレゼンテーションする。</p> <p>第13回：作家・作品研究Aと自身の研究の関係及び今後の制作にどのように影響するかをプレゼンテーションする。</p> <p>第14回：まとめ(作品鑑賞・ディスカッション)</p> <p>第15回：自分自身の研究内容に沿った作品実験① (現在の作品研究の現状プレゼンテーション)</p> <p>第16回：自分自身の研究内容に沿った作品実験② (各自指導された内容に沿って実験作品を制作)</p> <p>第17回：自分自身の研究内容に沿った作品実験③ (各自指導された内容に沿って実験作品を制作)</p> <p>第18回：自分自身の研究内容に沿った作品実験④ (各自指導された内容に沿って実験作品を制作)</p> <p>第19回：自分自身の研究内容に沿った作品実験⑤ (各自指導された内容に沿って実験作品を制作)</p> <p>第20回：自分自身の研究内容に沿った作品実験中間講評(プレゼンテーション含む)</p> <p>第21回：自分自身の研究作品制作① (展示計画)</p> <p>第21回：自分自身の研究作品制作② (コンセプト構築の継続・展示計画)</p>			

第22回：自分自身の研究作品制作③（コンセプト構築の継続・素材の実験含む）
第23回：自分自身の研究作品制作④（コンセプト構築の継続・素材の実験含む）
第24回：自分自身の研究作品制作⑤（コンセプト構築の継続・素材の実験含む）
第25回：自分自身の研究作品制作⑥（コンセプト構築の継続・素材の実験含む）
第26回：自分自身の研究作品制作⑦（コンセプト構築の継続・素材の実験含む）
第26回：研究作品制作講評及び展示計画プレゼンテーション
第27回：展示計画シミュレーション
第28回：展示及び講評・総括

授業外学修：

（予習90分）授業前には資料等を調べ疑問点や自分の考え方、自分の研究制作との関係等を考えておく
（復習90分）毎授業後には報告書または発表レジュメを提出すること

テキスト：

その都度、提示・配布する。

参考書・参考資料等：

その都度、提示・配布する。

学生に対する評価：

授業に取り組む姿勢、積極性等（40%）、提出作品/プレゼンテーション（60%）

全回の出席が評価の前提である。

その他：

各自の研究内容に沿って指導及びアドバイスする。

授業科目名： グラフィックデザイン特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：有馬十三郎
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>大学院修士課程造形学専攻における専門的知識習得のために、さまざまなメディアに対して高度なデザイン知識を習得し、ユーザーインターフェイス、インタラクティブデザインの特性を生かしたグラフィックデザイン特論を学ぶ。特にグラフィックデザインとインタラクティブデザインで解決されていない課題が探求できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>グラフィックデザインを生活文化との関係で研究し、社会性を重視した計画立案を前提としたデザインの意義を検討する。造形学専攻の学位授与方針に基づき、広告のグラフィックデザイン、視覚コミュニケーション表現、イラストレーション、写真表現などさまざまな領域でのグラフィックデザインの特徴を比較し、グラフィックデザインの専門的能力を習得していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生活文化とグラフィックデザイン 1. 概説 第2回：生活文化とグラフィックデザイン 2. リサーチ 第3回：生活文化とグラフィックデザイン 3. 分析 第4回：レポート作成・ディスカッション 第5回：グラフィックデザインの社会性 第6回：グラフィックデザインとアート 第7回：グラフィックデザインとインタラクティブ 第8回：デザイン計画立案について 第9回：デザイン計画立案の構築法について 第10回：デザイン計画立案の行程進捗について 第11回：公共に関わるグラフィックデザインについて 第12回：さまざまな領域とグラフィックデザインの考察 第13回：さまざまな領域とグラフィックデザインの考察のまとめ 第14回：レポート発表と今後の展望</p>			
<p>授業外学修：</p> <p>サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること</p>			
<p>テキスト：</p> <p>プリント等はその都度配付する。講義ファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること</p>			
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>参考資料等のファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること</p>			
<p>学生に対する評価：</p> <p>レポート40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%</p>			
<p>その他：なし</p>			

授業科目名： グラフィックデザイン演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：有馬十三郎
授業の到達目標及びテーマ 大学院修士課程造形学専攻における専門的知識習得のために、多様なデザイン研究領域に対応したグラフィックデザインの技能を習得し、作品のコンセプトを記述、口述でき、それに沿って新しいグラフィックモデルの試作を工夫することができる。			
授業の概要 グラフィックデザインは様々なデザインの研究領域にとって関連する分野といえる。そのデザイン表現において、グラフィックデザインにおける柔軟な発想と技能を身につけることは、各自の研究テーマの幅を広げる。造形学専攻の学位授与方針に基づき、演習課題は参考作品の分析から始め、各自の研究テーマに準じデザインの作品発表、検討・評価を行う。			
授業計画 第1回：授業の概説 第2回：平面表現におけるデザインの考察 第3回：デザイン表現演習1（配置と構成） 第4回：デザイン表現演習2（タイポグラフィの特性） 第5回：デザイン表現演習3（タイポグラフィの技術） 第6回：デザイン表現演習4（コンテンツデザインとインタラクティブの基本） 第7回：デザイン表現演習5（コンテンツデザインとインタラクティブの特性） 第8回：デザイン表現演習6（コンテンツデザインとインタラクティブの技術） 第9回：課題制作（新しいグラフィックモデルの発案） 第10回：課題制作（新しいグラフィックモデルの検討） 第11回：課題制作（新しいグラフィックモデルの展開案） 第12回：課題制作（新しいグラフィックモデルの試作） 第13回：課題制作（新しいグラフィックモデルの試作の決定） 第14回：検討と講評			
授業外学修： サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること。			
テキスト： プリント等はその都度配付する。演習ファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること			
参考書・参考資料等： 参考資料等のファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること			
学生に対する評価： 課題作品40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%			
その他： なし			

授業科目名： グラフィックデザイン演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(美術))	担当教員名：有馬十三郎
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>①大学院修士課程造形学専攻における専門的知識習得のために、多様なデザイン研究領域に対応したグラフィックデザインの技能を習得し、作品のコンセプトを記述、口述でき、それに沿ってグラフィックデザインの実践的な知識と技能を工夫することができる。</p> <p>②市民生活や組織との関係の中で作品を通じて、社会での機能性、利便性、生活の質の向上など実現に取り組むことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>各自の研究テーマに必要なデザイン表現の考察を行い、研究テーマを平面から捉え直していく。造形学専攻の学位授与方針に基づき、課題は各自が研究・考察し決定したテーマに基づき、さまざまなメディア媒体を設定し、研究素材を選定しながら制作演習を行い作品の発表・検討、評価等を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概説</p> <p>第2回：平面表現におけるデザイン表現の考察</p> <p>第3回：デジタルサーネージにおけるデザイン表現の考察</p> <p>第4回：印刷書籍のデザインの演習</p> <p>第5回：電子書物のデザインの演習制作</p> <p>第6回：ブランディングとデザイン</p> <p>第7回：ブランディングのデザイン考察</p> <p>第8回：ブランディングのデザイン演習制作 基本デザイン演習制作</p> <p>第9回：ブランディングのデザイン演習制作 展開デザイン演習制作</p> <p>第10回：課題制作 プロジェクトとデザイン</p> <p>第11回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインと戦略設計</p> <p>第12回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインの企画</p> <p>第13回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインと技術</p> <p>第14回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインと管理</p> <p>第15回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインの検証</p> <p>第16回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインの管理</p> <p>第17回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインの標準化</p> <p>第18回：課題制作 プロジェクトとデザイン デザインとフィールドワーク</p> <p>第19回：課題制作 プロジェクトとデザイン フィールドワークの検討</p> <p>第20回：課題制作 デザイン修正</p> <p>第21回：中間プレゼンテーションと講評</p> <p>第22回：公共とグラフィックデザイン</p> <p>第23回：公共とグラフィックデザイン ポスターデザインの考察</p> <p>第24回：公共とグラフィックデザイン ポスターデザイン制作 案の作成</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

第25回：公共とグラフィックデザイン ポスターデザイン制作 データ作成

第26回：公共とグラフィックデザイン ポスターデザイン制作 プリントと検討

第27回：プレゼンテーションと講評

第28回：今後の展望とディスカッション

授業外学修：

サーバーの資料をもとに復習を1時間しておくこと。予習として1時間質問はあらかじめ用意すること

テキスト：

プリント等はその都度配付する。演習ファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること

参考書・参考資料等：

参考資料等のファイルは研究室のサーバーからダウンロードすること

学生に対する評価：

課題作品40%、予習・復習の有無20%、諮問に対する受け答えなどの平常点40%

その他：

なし

授業科目名：住環境特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：手嶋尚人
授業の到達目標及びテーマ 表現とまちづくりの関係性について理解し、表現の可能性について考察することができる。			
授業の概要 「表現とまちづくりの関係性について」をテーマとし、講義形式で行う。住民主体のまちづくりが、日本において言われてから既に30年以上が経つが、そのプロセスの大変さや合意形成の難しさなどから未だ定着できていない。近年、アート表現によるワークショップやイラストレーションによる視覚的な情報伝達の効果などまちづくりにおける役割が注目されている。また、地方においてもものづくりとまちづくりの関係が重要視されており、表現とまちづくりの関係を学ぶことの意義は大きい。具体的には、時間軸による分析と併せ事例の紹介をおこなっていき考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価等） 第2回：まちづくりと表現の変遷01（行政による彫刻のあるまちづくり） 第3回：まちづくりと表現の変遷02（再開発にともなうパブリックアートの設置） 第4回：まちづくりと表現の変遷03（市民団体によるアートプロジェクトの誕生） 第5回：まちづくりと表現の変遷04（アートプロジェクトと実行委員会形式） 第6回：まちづくりと表現の変遷05（地方発アートプロジェクトの隆盛） 第7回：まちづくりと表現の変遷06（遊休公共施設のアートセンター化） 第8回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の種類としくみ01（演劇と言語） 第9回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の種類としくみ02（音楽） 第10回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の種類としくみ03（美術） 第11回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の手法01（再発見・価値の転換） 第12回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の手法02（伝達・参加） 第13回：事例研究：まちづくりにかかわる表現の手法03（定着） 第14回：まとめ（ディスカッション）			
授業外学修：各授業に関連する本やテキストを紹介するので、各自読んでくること。また、授業後、興味関心を持った項目に関し、インターネットで調べること。授業の事前事後の学修の必要時間は概ね1回の授業に対し200分程度を目安とする。			
テキスト：教科書は特になし。配布資料等は逐次配布する。			
参考書・参考資料等：授業中に逐次指示する。			
学生に対する評価：授業への参加姿勢60%、レポートの提出40%			
その他：初回の授業で、本講義の目的・方法・成績評価法など重要事項を説明する。			

授業科目名：住環境演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：手嶋尚人
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>まちづくりにかかわる表現活動について、その状況や課題を理解し今後の展望について考察することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>空間表現特論においてテーマとしている表現とまちづくりの関係性について事例調査・研究を行い、その結果をプレゼンテーションし、表現の持つまちづくりにおける役割について議論し考察する。特に、アート表現における価値の転換や再発見の力、またワークショップなどによる合意形成するコミュニケーション力を中心課題として考えていく。具体的には、まちづくりアートプロジェクトへの参加やアートNPOへのヒアリングを通して、現状を把握分析し今後の課題を発見考察していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価等）</p> <p>第2回：まちづくりにかかわる表現活動の課題と研究テーマ抽出（ワークショップ）</p> <p>第3回：抽出された課題と研究テーマについての検討（ワークショップ）</p> <p>第4回：研究テーマの発表およびディスカッション</p> <p>第5回：研究テーマに沿った調査準備01（調査候補地の選定）</p> <p>第6回：研究テーマに沿った調査準備01（調査項目の決定）</p> <p>第7回：事例調査01（候補地A）</p> <p>第8回：事例調査02（候補地B）</p> <p>第9回：事例調査03（候補地C）</p> <p>第10回：事例調査に関する中間報告会</p> <p>第11回：事例調査に基づく分析01（事例の特異性）</p> <p>第12回：事例調査に基づく分析02（事例の共通性）</p> <p>第13回：事例分析結果の発表会</p> <p>第14回：まちづくりにかかわる表現活動の展望（ワークショップ）、まとめ</p>			
<p>授業外学修：各授業に関連する本やテキストを紹介するので、各自読んでくること。また、授業後、興味関心を持った項目に関し、インターネットで調べること。授業の事前事後の学修の必要時間は概ね1回の授業に対し200分程度を目安とする。</p>			
<p>テキスト：教科書は特になし。配布資料等は逐次配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：授業中に逐次指示する。</p>			
<p>学生に対する評価：授業への参加姿勢60%、レポートの提出40%</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名：住環境演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：手嶋尚人
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本を中心に町並み保存、継承の状況や課題を理解し、今後の展望について考察することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>継承とまちづくりをテーマとして行っていく。まちづくりの分野において、全国の重要伝統的建造物群保存地区など伝統的民家や町家、町並みの保存を資産、課題として行っているものは多い。近年、その中において、文化財としてのモノではなく、地域の生活文化としてまちづくりへ転換していこうという動きも増えている。ここでは、継承をキーワードとし、地域の生活文化とまちづくりについて考察する。具体的には事例調査を行うとともに具体的なエリアを取り上げ、そこにおける継承とまちづくりの可能性について検討考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義の概要、進め方、評価等）</p> <p>第2回：町並み保存や継承の変遷（日本 1960年代以前）</p> <p>第3回：町並み保存や継承の変遷（日本 1970年代）</p> <p>第4回：町並み保存や継承の変遷（日本 1980年代、1990年代）</p> <p>第5回：町並み保存や継承の変遷（日本 2000年代以降）</p> <p>第6回：町並み保存や継承の変遷（世界 1970年代以前）</p> <p>第7回：町並み保存や継承の変遷（世界 1980年代以降）</p> <p>第8回：町並み保存や継承の現在（日本 東日本）</p> <p>第9回：町並み保存や継承の現在（日本 西日本）</p> <p>第10回：町並み保存や継承の現在（世界 アメリカ）</p> <p>第11回：町並み保存や継承の現在（世界 欧州）</p> <p>第12回：町並み保存や継承の現在（世界 アジア）</p> <p>第13回：継承の意味について（ワークショップ）</p> <p>第14回：継承とまちづくりについての課題と研究テーマの抽出（ワークショップ）</p> <p>第15回：抽出された課題と研究テーマについての検討（ワークショップ）</p> <p>第16回：抽出された課題と研究テーマについてのまとめ（ワークショップ）</p> <p>第17回：研究テーマの発表およびディスカッション</p> <p>第18回：研究テーマに沿った調査準備01（調査候補地の選定）</p> <p>第19回：研究テーマに沿った調査準備02（調査項目の決定）</p> <p>第20回：研究テーマに沿った調査準備03（調査方法の決定）</p> <p>第21回：事例調査01（候補地A）</p> <p>第22回：事例調査02（候補地B）</p> <p>第23回：事例調査03（候補地C）</p> <p>第24回：事例調査04（候補地D）</p> <p>第25回：事例調査に関する報告会</p> <p>第26回：事例調査に基づくまとめ</p>			

R3 シラバス 造形学専攻

第27回：事例分析結果の発表会

第28回：継承とまちづくりについての展望（ワークショップ）

授業外学修：各授業に関連する本やテキストを紹介するので、各自読んでくること。また、授業後、興味関心を持った項目に関し、インターネットで調べること。授業の事前事後の学修の必要時間は概ね1回の授業に対し200分程度を目安とする。

テキスト：教科書は特になし。配布資料等は逐次配布する。

参考書・参考資料等：授業中に逐次指示する。

学生に対する評価：授業への参加姿勢60%、レポートの提出40%

その他：初回の授業で、本講義の目的・方法・成績評価法など重要事項を説明する。

授業科目名： インテリアデザイン特論	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：豊田聡朗
授業の到達目標及びテーマ			
<ul style="list-style-type: none"> ・「社会とデザインの関係性」を歴史的観点から説明できる ・「社会とデザインの関係性」を経済、環境などの観点から説明できる ・「社会とデザインの関係性」を未来、理想など幅広い観点から分析、推察できる 			
授業の概要			
<p>「社会とデザインの関係性」を人間らしさ・豊かさをサブテーマにしながら講義+ディスカッション形式で行う。近代史から現在までのデザインの社会への関わりは、技術・戦争・思想の変化・ムーブメント・経済・環境問題・エネルギー問題・AIなどの影響を受けつつ私たちの生活に直接届いている。作られ続けるデザインが、私たちの生活環境となり、私たちの感性を育む要因でもある。デザインはクライアントの思惑と社会の理想を背負う運命を辿るのだが、この複雑克つ矛盾を孕む状況下で1人のデザイナーとして判断する力・思想の礎を幅広い視点から養う。この講義は、造形学専攻の学位授与方針に基づき、デザインの生活美術における役割、産業、教育における役割を多角的に理解し専門分野としての学識を修得していく。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（講義概要、進め方、評価等）			
第2回：歴史に見るデザイン1（産業革命～2つの世界大戦）			
第3回：歴史に見るデザイン2（60年代～80年代）			
第4回：歴史に見るデザイン3（90年代～現在）			
第5回：歴史に見るデザイン4（ディスカッション）			
第6回：民族・風土・文化とデザイン1（テリトリー・プライバシー）			
第7回：民族・風土・文化とデザイン2（虚無・間・闇・光）			
第8回：民族・風土・文化とデザイン3（ディスカッション）			
第9回：身体と心1（空間の認知・認識・身体と心）			
第10回：身体と心2（成長：子供～青年～大人～高齢者）			
第11回：身体と心3（ディスカッション）			
第12回：環境問題とデザイン			
第13回：エネルギー問題とデザイン			
第14回：まとめ（ディスカッション）			
授業外学修：予習2時間、復習、ノート整理1時間 毎授業後にはレポートを提出すること			
テキスト：随時指示する			
参考書・参考資料等：未定			
学生に対する評価：予習・復習等20点、平常点40点、レポート40点			
授業への参加姿勢、レポート提出により総合的に評価する。レポートはフィードバックを行う。			
その他：			

授業科目名： インテリアデザイン演習 I	単位数：2単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：豊田聡朗
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人と物の関係」を椅子に焦点を当ての機能分類などの観点から説明できる ・「起居様式」と「椅子」を歴史的変遷の観点から説明できる ・素材の特性を理解しデザインの可能性を探りつつ計画ができる ・家具デザインの基本（計画立案、作図、模型制作）を理解できる 			
<p>授業の概要</p> <p>「人と物の関係性」を「椅子という機能」と「人と人をつなぐ」をテーマの中心に考え、人間の観察、在り様を深く考察する。椅子は座るだけの道具ではなく、人の居場所や地位を表し、同じ空間を共有する者同士が相互を感じ対話やコミュニケーションのきっかけを作る。このような視点に考慮しながらデザインを試みる。</p> <p>また、物の魅力・美しさの要素を様々な分野に視野を広げながらデザインの可能性を探る。この演習では、身近な「家具」を通し、生活美術の可能性と意義を迫及、専門分野の学識を広げ、能力を修得していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義概要、進め方、評価等）</p> <p>第2回：既存椅子の分析1（機能と分類 分析発表+ディスカッション）</p> <p>第3回：既存椅子の分析2（素材と形体 分析発表+ディスカッション）</p> <p>第4回：既存椅子の分析3（意匠全体 分析発表・アイデア+ディスカッション）</p> <p>第5回：「人と人をつなぐ」（ディスカッション）</p> <p>第6回：「人と物をつなぐ」（アイデア+ディスカッション）</p> <p>第7回：デザイン案1（アイデア+模型1/5エスキース 機能と形）</p> <p>第8回：デザイン案2（アイデア+模型1/5エスキース 素材の選択）</p> <p>第9回：デザイン案3（アイデア+模型1/5エスキース 人と意匠）</p> <p>第10回：素材加工実験1（実験加工+エスキース 形と手法の検討）</p> <p>第11回：素材加工実験2（実験加工+エスキース 素材の仕上げ方）</p> <p>第12回：原寸図作成（基本図作成）</p> <p>第13回：原寸図作成（詳細：継手構造の検討、納まり加工方法の検討）</p> <p>第14回：まとめ講評</p>			
<p>授業外学修：予習、準備、復習、整理等 各1時間 毎授業時にはレポートを提出すること。</p>			
<p>テキスト：随時指示する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：未定</p>			
<p>学生に対する評価：予習、復習20点 平常点40点 レポート 作品 40点 演習への参加姿勢、作品、レポートの提出により総合的に評価する。</p>			
<p>その他：</p>			

授業科目名： インテリアデザイン演習Ⅱ	単位数：4単位	選択 (中・高専(家庭))	担当教員名：豊田聡朗
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人と空間の関係性」を機能、歴史的経緯、コンテキスト、景観などの観点から分析説明できる ・既存空間の社会的価値を理解し、更に新たな可能性を模索し提案できる ・「人と物の関係性」を生産側（物を作る人、地域産業、地域環境など）の観点から分析、説明できる ・職人、地域産業、環境などを活かす観点から商品の計画提案ができる 			
<p>授業の概要</p> <p>「人と空間の関係性」：見せる空間・集う空間・滞留する空間・往来する空間等の観点から、各自がテーマとする実際の空間の特性を分析評価する。更にその空間の機能、社会的役割を歴史的経緯、文化性、生活者のアイデンティティ、景観、環境などに広げ、「場・空間」の魅力を引き出す計画を試みる。</p> <p>「人と物の関係性」：物を作る人（職人）・材料産地・地域産業の関わりを学びながら、生活空間を彩る商品の開発を試みる。職人の技術と地域の資材を活かす「人と人をつなぐ」・「技術と地域をつなぐ」ことを趣旨にデザイン業務の可能性を探る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（講義概要、進め方、評価等）</p> <p>第2回：人と空間-基礎1（特論を補完する形で講義+ディスカッション パーソナルスペース）</p> <p>第3回：人と空間-基礎2（特論を補完する形で講義+ディスカッション コミュニケーション）</p> <p>第4回：人と空間-日本の伝承文化1（映像資料を基に各地の伝承文化を紹介、日本人の空間や物に対する感性を俯瞰する 祭り 年中行事）</p> <p>第5回：人と空間-日本の伝承文化2（映像資料を基に各地の伝承文化を紹介、日本人の空間や物に対する感性を俯瞰する 日常生活）</p> <p>第6回：フィールドワーク1（見る空間・見せる空間・集う空間をテーマに実際の空間へ観察調査及び人と空間の関係性を分析する）</p> <p>第7回：フィールドワーク2（滞留する空間・往来する空間をテーマに実際の空間へ観察調査及び人と空間の関係性を分析する）</p> <p>第8回：フィールドワーク3（祈る空間・解放する空間・緊張する空間をテーマに実際の空間へ観察調査及び人と空間の関係性を分析する）</p> <p>第9回：空間デザイン1（各自の選択した実空間を分析+ディスカッション 人の量・年齢・性別）</p> <p>第10回：空間デザイン2（各自の選択した実空間を分析+ディスカッション 人の状況・行楽・仕事・生活者の思い）</p> <p>第11回：空間デザイン3（空間の計画概要を検討+ディスカッション）</p> <p>第12回：空間デザイン4（空間の計画エスキース+ディスカッション）</p> <p>第13回：空間デザイン5（計画内容3D化又は模型制作、空間構成の再検討、詳細検討）</p> <p>第14回：計画プレゼンテーション+講評及びディスカッション</p>			

<p>第15回：人と物-基礎1（特論を補完する形で講義+ディスカッション 機能と利便性）</p> <p>第16回：人と物-基礎2（特論を補完する形で講義+ディスカッション 嗜好性と多様性）</p> <p>第17回：物のデザイン [商品開発シミュレーション]</p> <p>計画概要・企画立案1（社会的ニーズ・役割位置付け・実現性の検討）</p> <p>第18回：基本素材を考える（素材の可能性・地域性、産業、環境、資源の状況を学ぶ）</p> <p>第19回：加工技術を考える（必要な加工技術・職人の生活スタイル、後継者問題などを学ぶ）</p> <p>第20回：計画概要・企画立案2（ニーズ・役割・地域連携の可能性を探る）</p> <p>第21回：基本素材の実地調査、ヒアリング（素材産地と地域連携・職人連携の可能性を探る）</p> <p>第22回：加工技術の実地調査、ヒアリング（加工技術の検証・職人連携の可能性を探る）</p> <p>第23回：生産行為の継続性を考える（継続的製品の生産と継続的消費ニーズの可能性）</p> <p>第24回：製品デザイン1（エスキース+ディスカッション コンセプトとデザインの整合性）</p> <p>第25回：製品企画まとめ（エスキース+ディスカッション コンセプトの決定）</p> <p>第26回：製品企画ヒアリング（エスキース+ディスカッション 職人、生産者の意見をヒアリング）</p> <p>第27回：製品デザイン再検討（エスキース+ディスカッション 問題点の改善策を探る）</p> <p>第28回：プレゼンテーション+講評（ディスカッション）</p>
<p>授業外学修：予習2時間 復習2時間 程度</p> <p>毎授業後にレポートを提出すること。</p>
<p>テキスト：</p> <p>随時指示する。</p>
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>未定</p>
<p>学生に対する評価：予習・復習準備20点 平常点40点 レポート作品 40点</p> <p>授業への参加姿勢、作品、レポートの提出により総合的に評価する。レポートのフィードバックを行う。</p>
<p>その他：</p>

授業科目名：研究指導 特別研究・制作	単位数：10単位	必修	担当教員名：16名
<p>授業の概要</p> <p>被服科学、服飾造形学、服飾デザイン学、および造形表現の各分野に関して、研究の実践、指導を行い、またこれらについて論文指導を行う。</p> <p>(高水伸子)</p> <p>材料の特性を生かした衣服のデザインと表現方法を歴史の実例を振り返りながら研究・分析し、実際に布を用いてテーマ性のある作品の制作指導、あるいは布を用いた実証を伴う論文指導を行う。</p> <p>(有馬十三郎)</p> <p>次世代プリントメディア、デジタルコンテンツ、インターネットなどにおける視覚・コミュニケーションのデザイン研究を目的とし、プリントメディア、デジタルメディアのコンテンツ、インターフェイスのデザイン開発研究や制作の指導を行う。</p> <p>(石田恭嗣)</p> <p>衣服を含む生活に関わるものについて、造形的または身体と環境などさまざまな視点から眺め、そのなかから問題点を発見し、生活に有用なデザインへのアプローチとなるような研究、製作についての指導を行う。</p> <p>(潮田ひとみ)</p> <p>健康で快適な衣生活を目指して、興味のあるテーマを選択させ、関連する分野の先行研究を、適宜参考にしながら、着心地の良い被服設計のために必要な各種評価法や解析法を指導する。</p> <p>(岡田京子)</p> <p>学校の内外を問わず、乳幼児から18歳までの幅広い育ちの場における造形表現に関する研究の実践、指導を行い、またこれらについての作品制作指導、論文指導を行う。</p> <p>(押元信幸)</p> <p>多様な金属造形・ジュエリーにかかわる手法をきっかけに、自らの表現についての調査・研究考察を行い、その展開表現についての研究指導を行う。</p> <p>(兼古昭彦)</p> <p>幅広い映像メディアの手法を用いて、身体や空間、社会などとの関係から、映像表現についての調査・研究考察を行い、作品制作・発表に対しての研究指導を行う。</p> <p>また、版画領域についての領域についても、同様に扱う。</p>			

(葛原亜起夫)

世の中に役に立つ新規高機能性繊維、および新規洗浄システム・評価法を創生することを目的とし、分光学的手法を用いて、「洗浄」と「天然繊維」をキーワードとした研究指導を行う。

(高田三平)

土による新しい表現の可能性を探ることを主眼とし、原点に立ち返り、土を焼く意味を深く掘り下げて、表現活動・作品発表の指導を行う。

(手嶋尚人)

日常の暮らしを豊かに楽しくするまちづくりについて、表現や生活文化の継承等をキーワードとし、その現状と今後のあり方を課題とする。地域におけるまちづくりの比較検討や具体的な地域を対象とした調査・分析等、テーマにあった研究指導を行う。

(濱田仁美)

被服材料の機能性と風合いに着目し、新たな機能性を有するテキスタイル素材の提案を目標として、興味のあるテーマを設定して物性評価・解析を含む科学的アプローチによる研究指導を行う。

(早瀬郁恵)

繊維素材を基本とした制作表現の中で、染色表現の研究考察を通してテーマを設定する。これまで学んできた様々な技法や加工法を応用し、より高度な表現力を養い、制作及び発表をする。

(曾根博美)

現代の美術分野における社会関与型芸術の実践、展覧会制作、批評、キュレーションの方法論、アートマネジメント、ワークショップを主軸とし、各自が発見・設定したテーマに関する研究指導を行う。

(豊田聡朗)

人と空間・人と物の関係を多様な地域、生活文化の違いから考察する。

見せる空間・集う空間・滞留する空間・往来する空間・住む空間などを基に、人の営みに影響し続ける冠婚葬祭・火・水・蔵・財・神・祖・家族・仲間などの感覚や設えを見付け出し理解を深める。更に、現代から未来におかれる私達の生活スタイルに「豊かさとは？」の視点でそれらの感覚を設えや形象としてデザインのテーマに置き可能性を試みる。以上を課題とし研究指導を行う。

(宮本真帆)

インタラクティブ性を中心とした体験性を重視した造形作品について調査・研究考察を行い、作品制作・発表に対しての研究指導を行う。

先端のメディアテクノロジーの利用はもとより、従来からのアナログメディアや素材も積極的に使い、

人間性を置き去りにしないメディアデザインの在り方を模索する。

制作ではプロトタイピング手法により自作に対する批判的考察～改良のサイクルでデザイン性を向上させる。

(山藤仁)

絵画表現と多様化した表現の現在とアートとの関係を調査、研究する。

研究内容は制作によって表し、そのコンテキストをプレゼンテーションする。また、展覧会等の企画を行いながらその可能性を探る。